

コマツ
2020年度 第1四半期(4-6月)
決算説明会
【電話会議】

2020年7月30日(木)

コマツ出席者

代表取締役社長(兼)CEO

常務執行役員CFO

執行役員経営管理部長

小川 啓之

堀越 健

今吉 琢也

I. 新型コロナウイルスに関する影響について<P3-P7>

P4-P7 : 新型コロナウイルスに関する影響について

II. 2020年度 第1四半期(4-6月)決算の概要<P8-P15>

P9-P10 : 2020年度第1四半期(4-6月)の概況

P11-P12 : <建設機械・車両> 2020年度第1四半期(4-6月)の状況(概況・セグメント売上高・利益)

P13 : <リテールファイナンス> 2020年度第1四半期(4-6月)の状況

P14 : <産業機械他> 2020年度第1四半期(4-6月)の売上高とセグメント利益

P15 : 連結貸借対照表

III. 2020年度の業績見通し<P16-P32>

P17-P18 : 2020年度の見通し(概要・セグメント売上高・利益)

P19-P20 : <建設機械・車両> 2020年度の売上高とセグメント利益の見通し

P21 : <リテールファイナンス> 2020年度の見通し

P22 : <産業機械他> 2020年度の売上高とセグメント利益の見通し

P23-P28 : <建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し(全体及び地域別)

P29-P30 : <建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と売上高の見通し

P31 : <建設機械・車両> 部品の売上高の見通し

P32 : 設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

参考資料 <P33-P41>

P34-P38 : 四半期毎の状況

P39-P41 : BBレシオ〔受注／売上指数(6ヶ月)〕

I .新型コロナウイルスに関する影響について

1. 事業活動の状況

(1) 生産への影響

〈オペレーション停止等の影響がでている生産拠点の状況〉

拠点名	最新の状況
コマツインディア	生産停止（3/24～7/31） ロックダウン延長

(2) 販売・サポート活動への影響

項目	最新の状況
機械の稼働状況	昨年レベルに戻りつつある
営業活動	在宅勤務から通常勤務、あるいは、制限付き勤務に移行する拠点が増加
サービス活動	部品倉庫、サービス・ワークショップで通常勤務が増加

2. 業績への影響

(1) 2020年度第1四半期実績

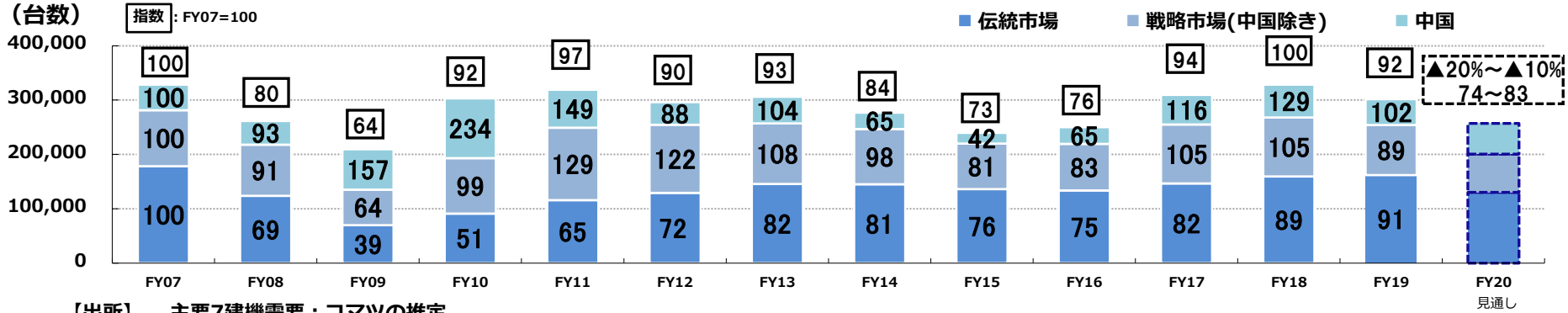
建設機械・車両	売上高：対前年▲25%。中国を除く全地域で減収
産業機械他	自動車業界向け：設備投資の遅延、見直しの影響を受け、前年同期比減収 半導体業界向け：前年同期比増収

(2) 2020年度業績予想について（需要の見通し）

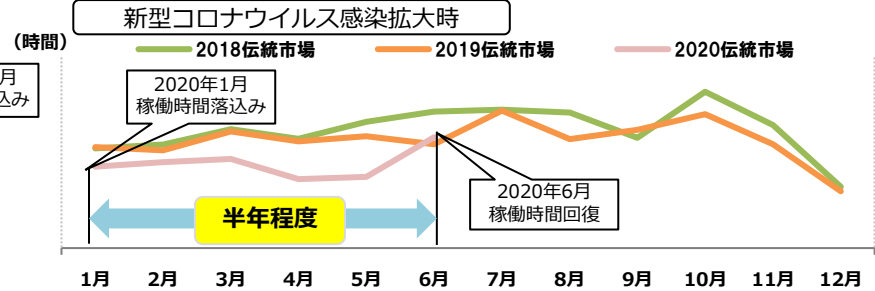
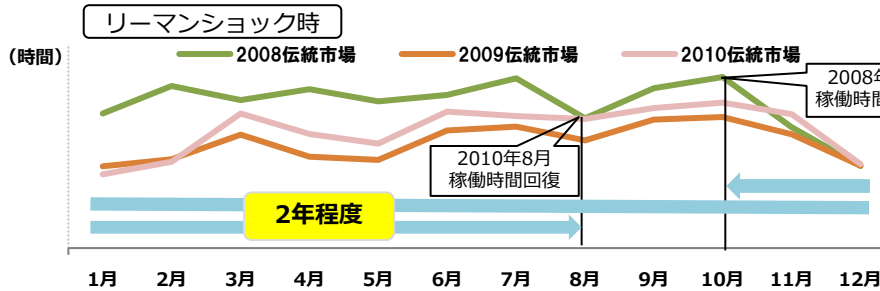
	前年比	当初想定 (コロナウイルス影響考慮前)	今回見込み
建設機械・車両	7建機需要	前年度並み	▲10%～▲20%
	内、鉱山機械	▲10%～▲20%	←
	伝統市場：3Qより回復基調に入る見込み 戦略市場：4Qより回復基調に入る見込み 中国：2～3月のセールスシーズン後ろ倒しがあり1Qは大幅増、2Q以降も堅調に推移する見込み		
産業機械他	自動車業界向け：新規設備の投資延期・抑制で、今年度は厳しい環境が続く 半導体業界向け：需要は堅調		

(2) 2020年度業績予想について (需要の見通し)

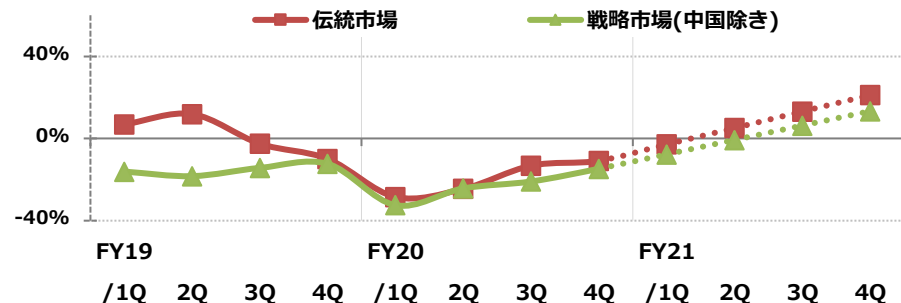
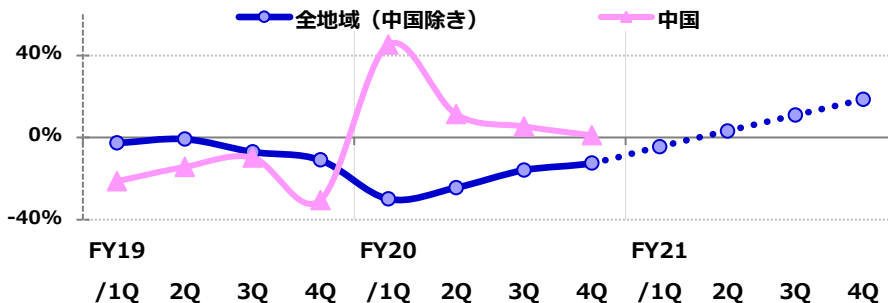
<主要7建機 年度別需要推移>



<KOMTRAX月平均稼働時間推移>



<主要7建機 対前年同期伸び率 (FY19~FY21)>



【出所】 主要7建機需要: コマツの推定

FY21は仮に同じ傾向が続いた場合の想定

FY21は仮に同じ傾向が続いた場合の想定

3. ウィズコロナ/アフターコロナの取組み

項目	取組み	
ビジネス機会の 拡充	3密回避対策	建設機械：自動化、無人化、遠隔操作化 土木施工：現場のデジタル化
	中期経営計画 の推進	建設機械：DXスマートコンストラクションの拡大 鉱山機械：積み込み機の遠隔操作化の導入 マイニングプラットフォームの開発
働き方改革	デジタルマーケティングの推進 在宅勤務制度の適用拡大 オンライン会議などICTツールの積極的活用 社員の健康管理用にウェアラブルデバイスの配布検討	
ステークホルダー との対話方法の 見直し	オンラインによるIR活動 バーチャル株主総会実施の検討 社員ミーティングの開催方法見直し（小グループ化、リモート化）	

Ⅱ. 2020年度 第1四半期(4-6月)決算の概要

- ・ 連結売上高は前年同期比▲24.8%減収の4,587億円。
- ・ 営業利益は前年同期比▲64.0%減益の269億円、売上高営業利益率は▲6.4ポイント減の5.9%。
- ・ 純利益は前年同期比▲65.8%減益の162億円。

金額単位：億円	2019年4-6月	2020年4-6月	前年同期比	
	¥110.0/USD ¥123.2/EUR ¥16.2/RMB	¥107.5/USD ¥118.6/EUR ¥15.1/RMB	増減	増減率
連結売上高	6,097	4,587	▲ 1,510	▲24.8%
セグメント利益	727	266	▲ 461	▲63.4%
その他の営業収益(▲費用)	20	2	▲ 17	-
営業利益	747	269	▲ 478	▲64.0%
売上高営業利益率	12.3%	5.9%	▲ 6.4ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲ 78	15	+94	-
税引前純利益	669	284	▲ 384	▲57.4%
当社株主に帰属する当期純利益	474	162	▲ 312	▲65.8%

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年同期比▲24.2%減収の4,258億円。セグメント利益は前年同期比▲66.2%減益の232億円。セグメント利益率は▲6.8ポイント減の5.4%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年同期比▲7.9%減収の159億円。セグメント利益は前年同期比▲44.3%減益の18億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年同期比▲26.5%減収の250億円。セグメント利益は前年同期比+208.1%増益の17億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2019年4-6月		2020年4-6月		前年同期比	
					増減	増減率
売上高		6,097		4,587	▲ 1,510	▲24.8%
建設機械・車両	(5,605)	5,614	(4,200)	4,258	(▲ 1,405) ▲ 1,356	(▲25.1%) ▲24.2%
リテールファイナンス	(154)	172	(139)	159	(▲ 15) ▲ 13	(▲9.8%) ▲7.9%
産業機械他	(337)	340	(247)	250	(▲ 89) ▲ 89	(▲26.5%) ▲26.5%
消去		▲ 30		▲ 80	▲ 50	-
セグメント利益	□ 11.9%	727	□ 5.8%	266	□ ▲ 6.1ポイント ▲ 461	▲63.4%
建設機械・車両	□ 12.2%	686	□ 5.4%	232	□ ▲ 6.8ポイント ▲ 454	▲66.2%
リテールファイナンス	□ 19.7%	34	□ 11.9%	18	□ ▲ 7.8ポイント ▲ 15	▲44.3%
産業機械他	□ 1.6%	5	□ 6.8%	17	□ +5.2ポイント +11	+208.1%
消去または全社		0		▲ 1	▲ 2	-

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

物量減及び為替差のマイナス影響により減収、物量減及び為替のマイナス影響等により減益。

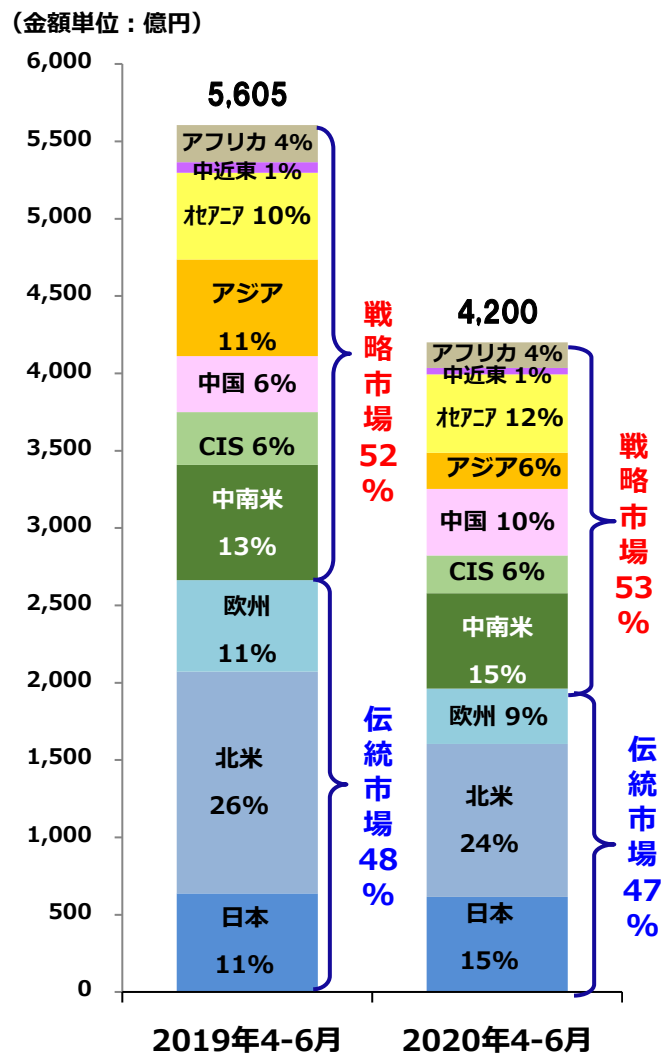
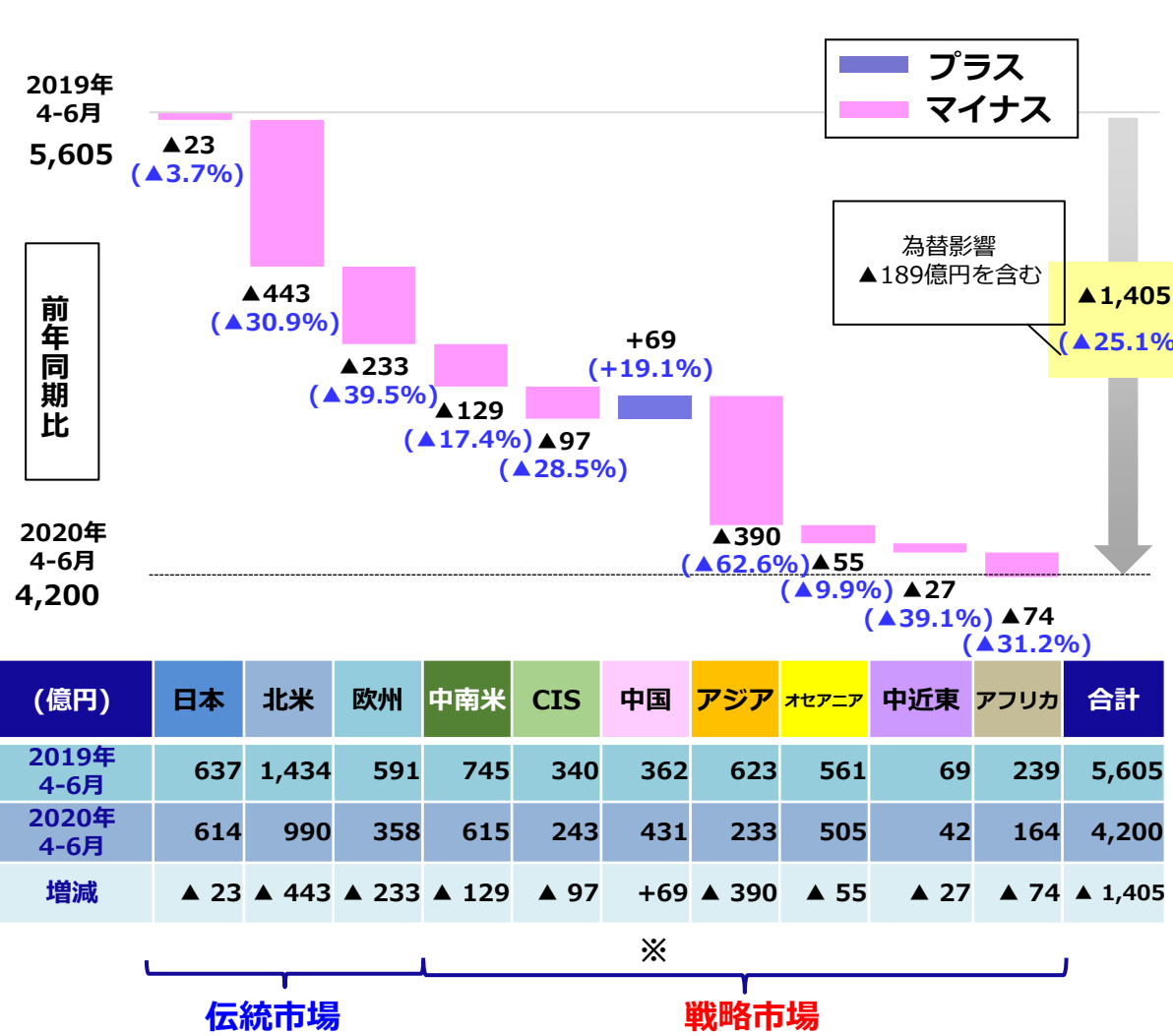
■ リテールファイナンス

新規取組高の減少や為替の影響等により減収、支払猶予の影響、およびリースアップ車の評価の見直し等により減益。

■ 産業機械他

自動車業界向け鍛圧機械、工作機械の販売減等に伴い減収、半導体市場向けエキシマレーザー関連の販売が堅調であったことにより増益。

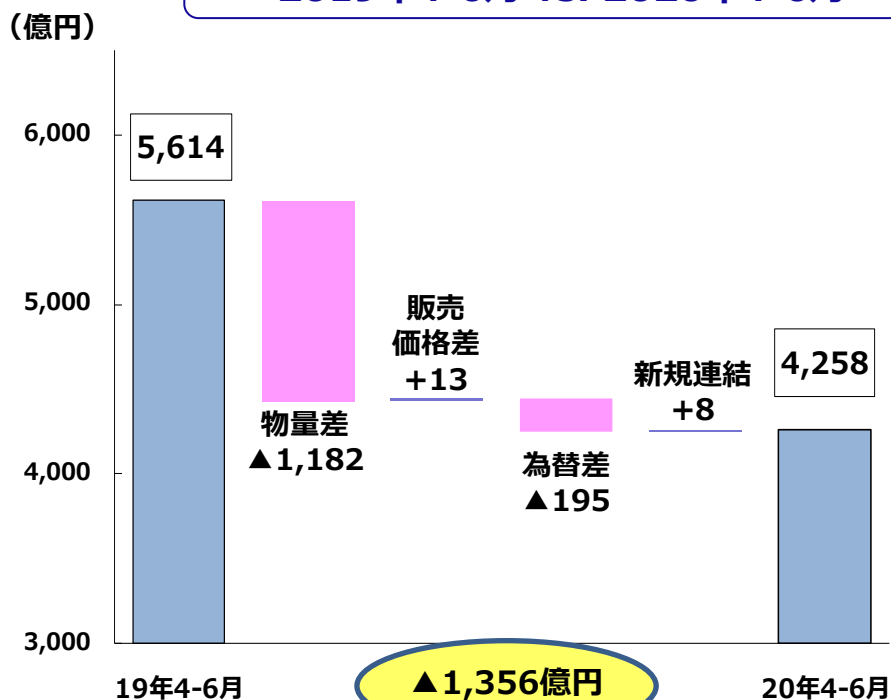
- ・ 外部顧客向け売上高は前年同期比▲25.1%減収の4,200億円。
- ・ 中国を除くすべての地域で減少。特に北米、アジア、欧州で大きく減少。
- ・ 伝統市場の比率は47%に低下。



※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

- ・売上高は、物量の減少および為替のマイナス影響により、前年同期比▲1,356億円の減収。
- ・セグメント利益は、物量減および為替のマイナス影響等により、前年同期比▲454億円の減益。
- ・売上高セグメント利益率は前年同期比▲6.8ポイント減の5.4%。

売上高
2019年4-6月 vs. 2020年4-6月

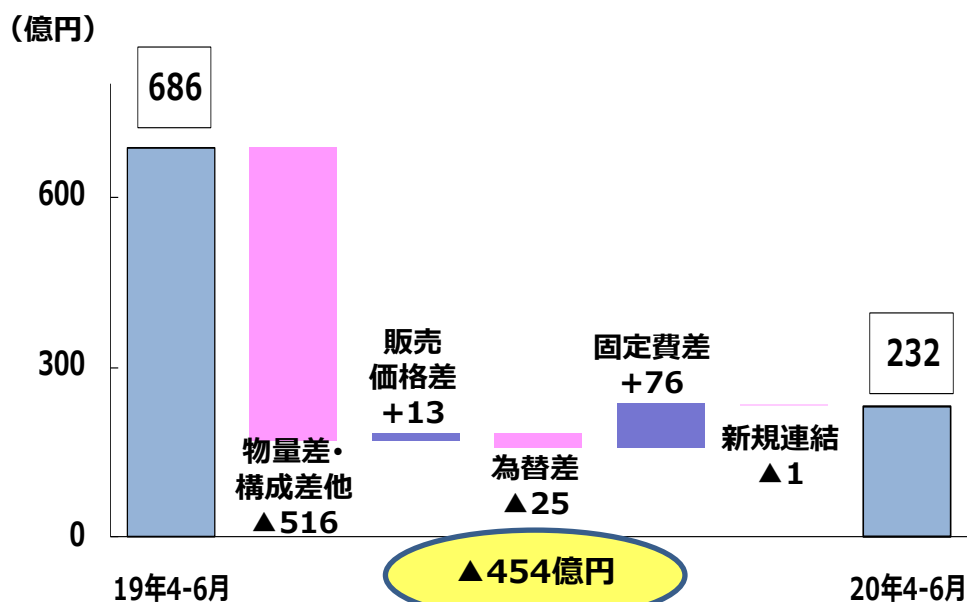


¥110.0/USD
¥123.2/EUR
¥16.2/RMB

■ プラス要因
■ マイナス要因

¥107.5/USD
¥118.6/EUR
¥15.1/RMB

セグメント利益
2019年4-6月 vs. 2020年4-6月



12.2%

売上高セグメント利益率

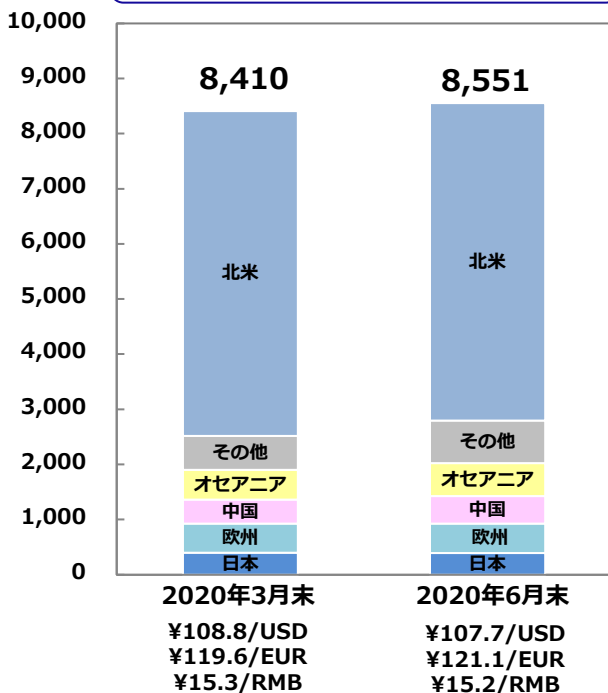
5.4%

■ プラス要因
■ マイナス要因

- ・資産は北米では減少したものの中国等での増加があり、前年度末比増加。
- ・新規取組高は新型コロナウイルス感染拡大の影響による販売減等により、前年同期比減少。
- ・売上高は新規取組高の減少等により、前年同期比減収。
- ・セグメント利益は、支払猶予の影響、およびリースアップ車の評価の見直し等により、前年同期比減益。

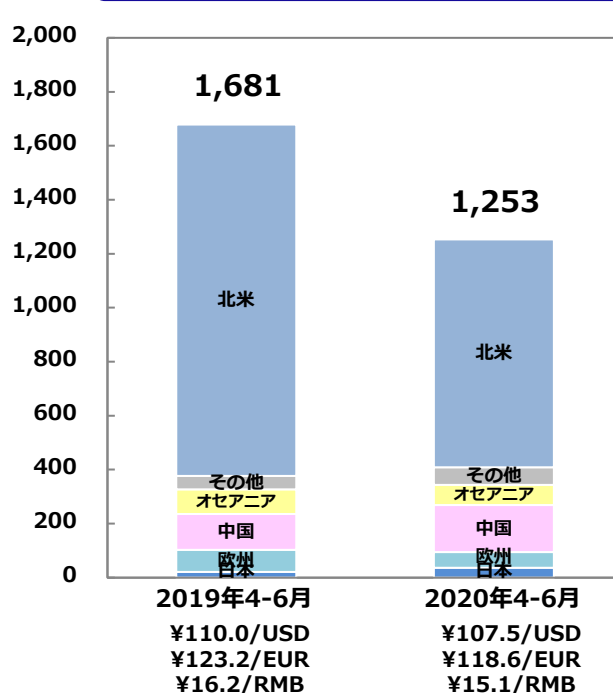
資産

2020年3月末 vs. 2020年6月末



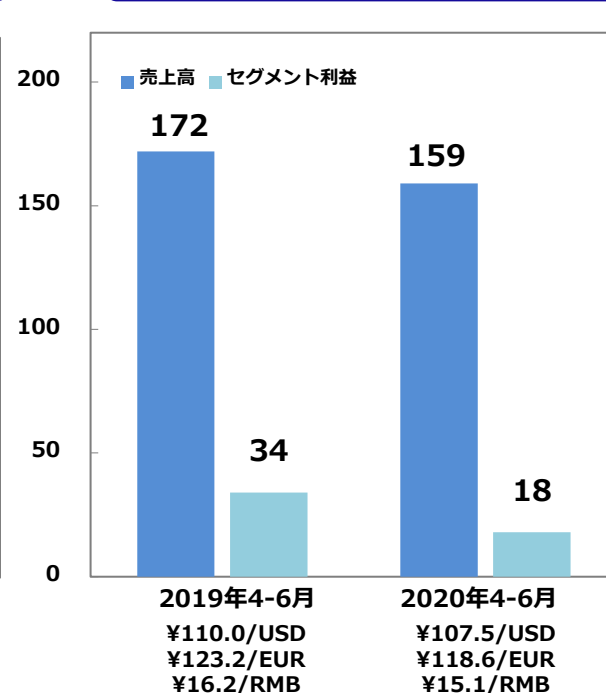
新規取組高

2019年4-6月 vs. 2020年4-6月



収益

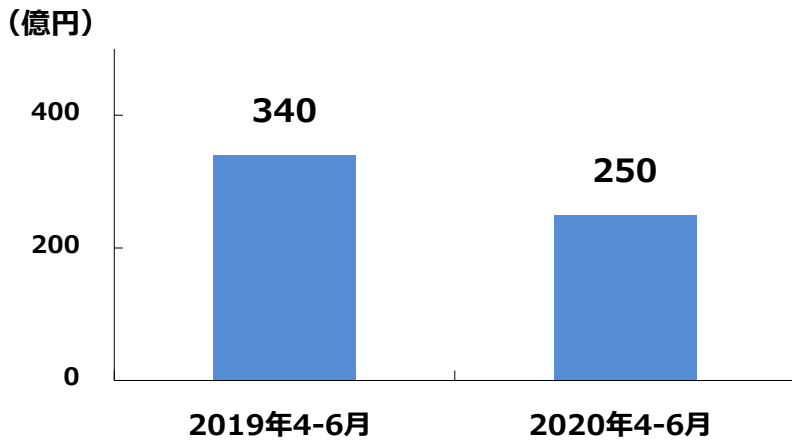
2019年4-6月 vs. 2020年4-6月



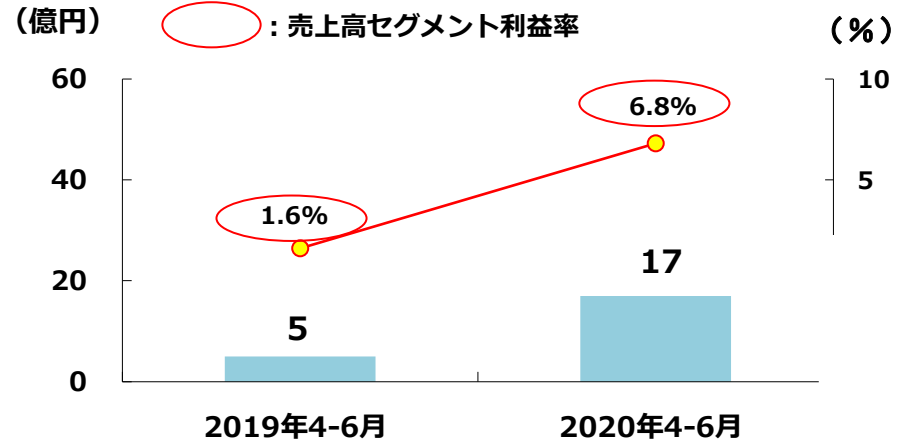
金額単位: 億円	2020年3月末	2020年6月末	前年比
借入金	6,480	6,579	+99
ネットベースの借入金	6,424	6,556	+132
ネットD/Eレシオ	3.80	3.86	+0.06ポイント

- ・売上高は自動車業界向けの鍛圧機械及び工作機械の販売減少により、前年同期比▲26.5%減収の250億円。
- ・セグメント利益は、前年同期比+11億円増益の17億円。
- ・売上高セグメント利益率は6.8%。

売上高 2019年4-6月 vs. 2020年4-6月



セグメント利益 2019年4-6月 vs. 2020年4-6月



売上高の内訳

(億円)	2019年4-6月	2020年4-6月	前年比	
			増減	増減率
コマツ産機	85	61	▲23	▲27.8%
コマツNTC	116	40	▲76	▲65.4%
ギガフォトン	82	96	+14	+17.0%
その他	56	52	▲4	▲7.2%
合計	340	250	▲89	▲26.5%

- ・総資産は前年度末比+71億円増加の3兆6,608億円。売掛金が減少、棚卸資産は増加。
- ・株主資本比率は前年度末比▲0.3ポイント減の48.2%。

金額単位：億円 ○：ネットD/Eレシオ	2020年3月末 ¥108.8/USD ¥119.6/EUR ¥15.3/RMB	2020年6月末 ¥107.7/USD ¥121.1/EUR ¥15.2/RMB	増減
現金・預金（含む定期預金） [a]	2,496	2,572	+75
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	11,653	11,004	▲ 648
棚卸資産	8,053	8,667	+614
有形固定資産	7,576	7,552	▲ 23
その他資産	6,757	6,811	+54
資産合計	36,536	36,608	+71
支払手形・買掛金	2,201	2,042	▲ 158
借入金・社債 [b]	10,123	10,478	+354
その他負債	5,649	5,555	▲ 93
負債合計	17,974	18,077	+102
（株主資本比率）	（48.5%）	（48.2%）	（▲0.3ポイント）
株主資本	17,716	17,635	▲ 80
非支配持分	846	896	+50
負債及び純資産合計	36,536	36,608	+71
ネットベースの借入金・社債 [b-a]	○ 0.43 7,627	○ 0.45 7,906	+279
ネットD/Eレシオ（リテールファイナンス会社を除いた場合）	○ 0.08	○ 0.08	

Ⅲ. 2020年度の業績見通し

- ・ 連結売上高は前年比▲15.4%減収の2兆680億円。
- ・ 営業利益は前年比▲54.1%減益の1,150億円、売上高営業利益率は▲4.7ポイント減の5.6%。
- ・ 純利益は前年比▲56.4%減益の670億円。

金額単位：億円	2019年度 ¥108.7/USD ¥120.8/EUR ¥15.6/RMB	2020年度 (見通し) ¥105.6/USD ¥116.7/EUR ¥15.0/RMB	前年比	
			増減	増減率
連結売上高	24,448	20,680	▲ 3,768	▲15.4%
セグメント利益	2,550	1,210	▲ 1,340	▲52.6%
その他の営業収益(▲費用)	▲ 43	▲ 60	▲ 16	-
営業利益	2,507	1,150	▲ 1,357	▲54.1%
売上高営業利益率	10.3%	5.6%	▲ 4.7ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲ 275	▲ 70	+205	-
税引前純利益	2,231	1,080	▲ 1,151	▲51.6%
当社株主に帰属する当期純利益	1,538	670	▲ 868	▲56.4%
ROE	8.6%	3.8%	▲4.8ポイント	
1株当たり配当金(円)	94円	36円	▲58円	
連結配当性向	57.7%	50.8%		

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年比▲16.6%減収の1兆8,450億円。セグメント利益は前年比▲56.9%減益の980億円。セグメント利益率は▲5.0ポイント低下し5.3%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年比▲4.1%減収の680億円。セグメント利益は前年比▲21.1%減益の100億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年比+1.9%増収の1,810億円。セグメント利益は前年比+2.2%増益の140億円。

□ % : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2019年度		2020年度 (見通し)		前年比			
					増減	増減率		
売上高		24,448		20,680		▲ 3,768	▲ 15.4%	
建設機械・車両	(22,059)	22,112	(18,290)	18,450	(▲ 3,769)	▲ 3,662	(▲ 17.1%)	▲ 16.6%
リテールファイナンス	(629)	709	(590)	680	(▲ 39)	▲ 29	(▲ 6.3%)	▲ 4.1%
産業機械他	(1,759)	1,775	(1,800)	1,810	(+40)	+34	(+2.2%)	+1.9%
消去		▲ 148		▲ 260		▲ 111		-
セグメント利益	□ 10.4%	2,550	□ 5.9%	1,210	▲ 4.5ポイント	▲ 1,340		▲ 52.6%
建設機械・車両	□ 10.3%	2,273	□ 5.3%	980	▲ 5.0ポイント	▲ 1,293		▲ 56.9%
リテールファイナンス	□ 17.9%	126	□ 14.7%	100	▲ 3.2ポイント	▲ 26		▲ 21.1%
産業機械他	□ 7.7%	137	□ 7.7%	140	+0.0ポイント	+2		+2.2%
消去または全社		13		▲ 10		▲ 23		-

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

物量減及び為替差のマイナス影響により減収、物量減及び地域構成差等により減益。

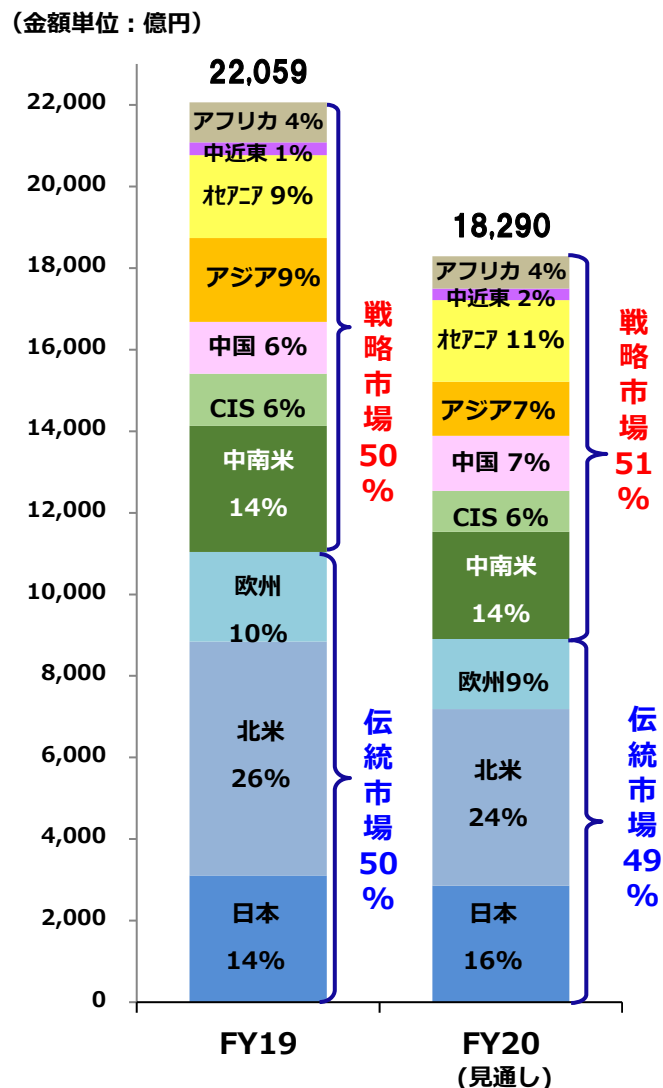
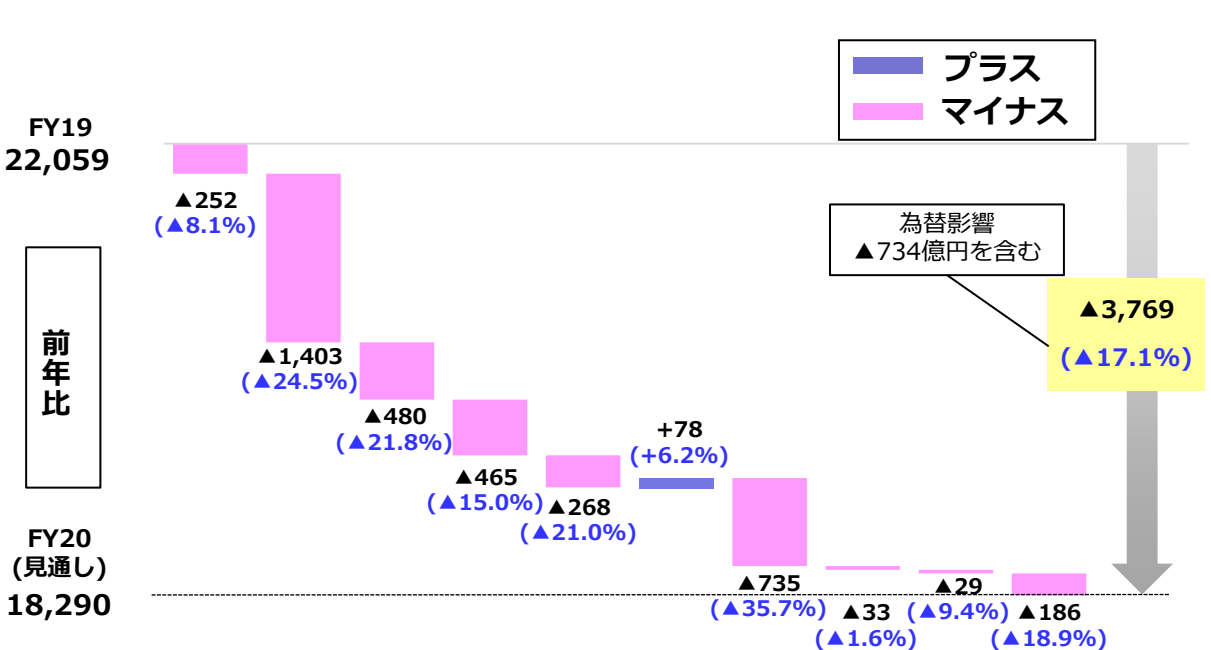
■ リテールファイナンス

新規取組高の減少や為替の影響等により減収、支払猶予の影響、およびリースアップ車の評価の見直し等により減益。

■ 産業機械他

半導体市場向けエキシマレーザー関連の販売が堅調であることにより増収増益。

- 外部顧客向け売上高は前年比▲17.1%減収の1兆8,290億円の見通し。
- 中国を除くすべての地域で減少。特に北米、アジア、欧州、中南米で大きく減少。
- 伝統市場の比率は49%に低下。



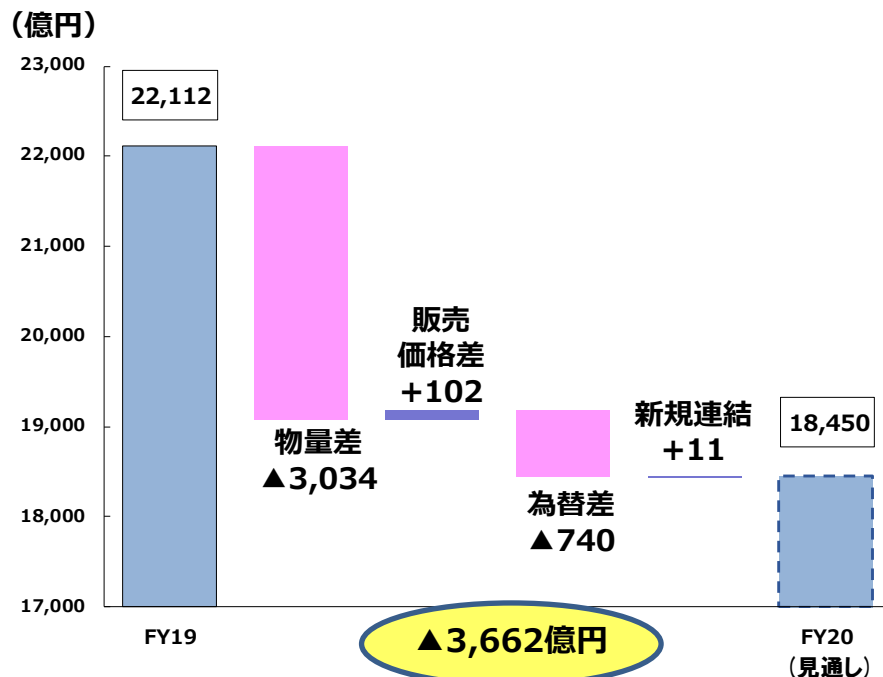
(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
2019年度	3,108	5,735	2,197	3,092	1,274	1,270	2,057	2,033	306	982	22,059
2020年度	2,857	4,333	1,718	2,628	1,007	1,349	1,323	2,001	278	797	18,290
増減	▲252	▲1,403	▲480	▲465	▲268	+78	▲735	▲33	▲29	▲186	▲3,769

※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

- ・売上高は、物量の減少および為替のマイナス影響により、前年比▲3,662億円の減収。
- ・セグメント利益は、物量減および為替のマイナス影響等により、前年比▲1,293億円の減益。
- ・売上高セグメント利益率は前年比▲5.0ポイント減の5.3%。

売上高
2019年度 vs. 2020年度(見通し)

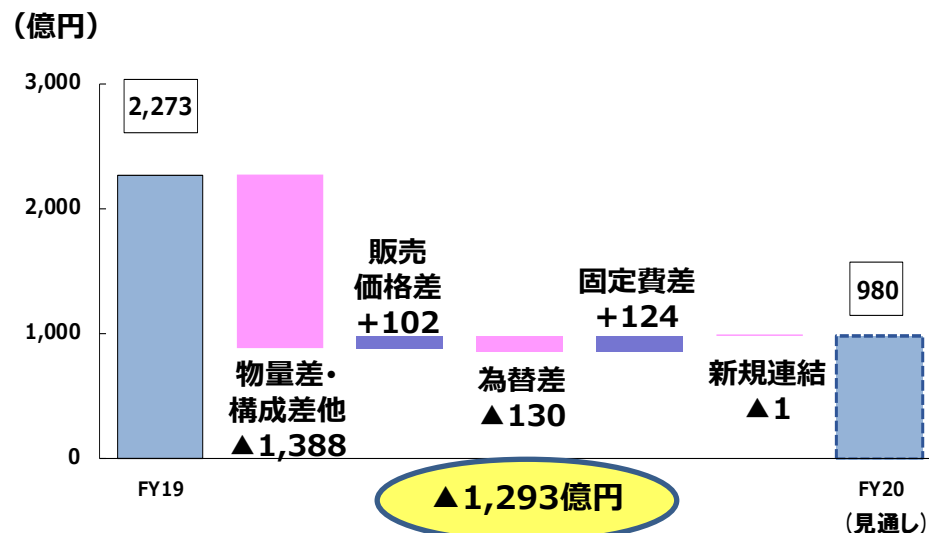


¥108.7/USD
¥120.8/EUR
¥15.6/RMB

■ プラス要因
■ マイナス要因

¥105.6/USD
¥116.7/EUR
¥15.0/RMB

セグメント利益
2019年度 vs. 2020年度(見通し)



10.3%

売上高セグメント利益率

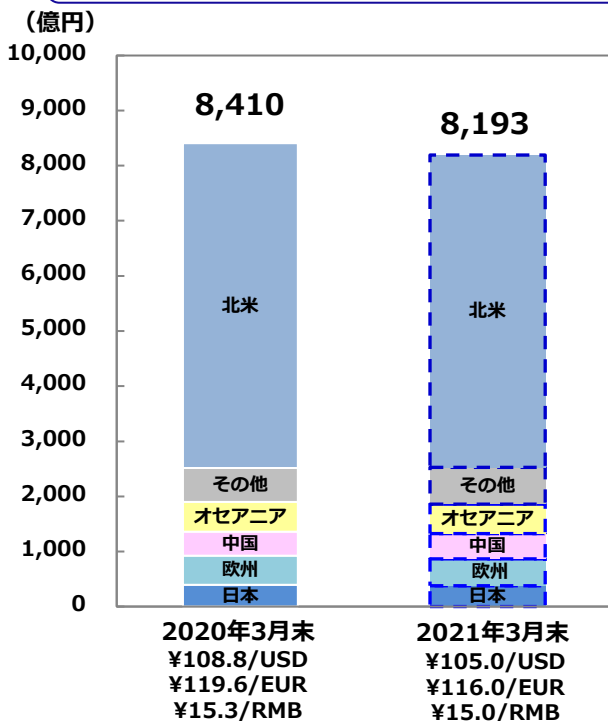
5.3%

■ プラス要因
■ マイナス要因

- ・資産は、主に新規取組減に伴い前年度末比減少の見通し。
- ・新規取組高は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による販売減等により前年比減少の見通し。
- ・売上高は、新規取組高の減少により、前年比減収の見通し。
- ・セグメント利益は、支払い猶予およびリースアップ車の評価の見直し等により、前年比減益の見通し。

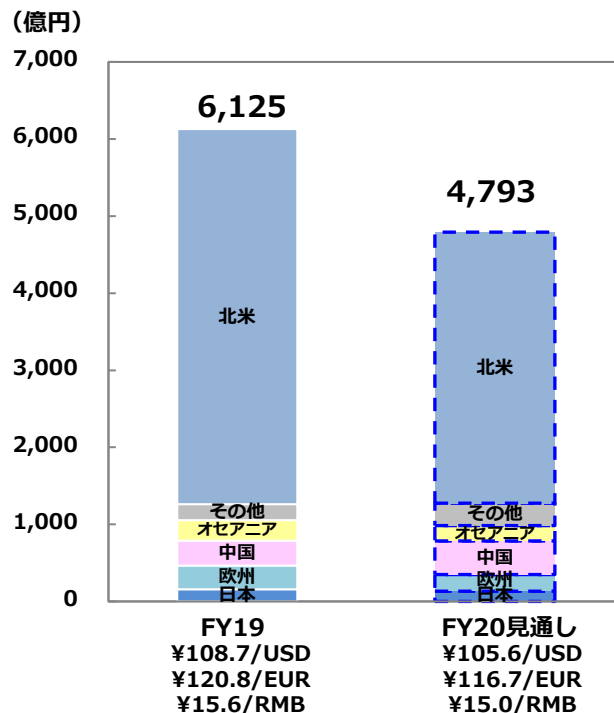
資産

2020年3月末 vs. 2021年3月末(見通し)



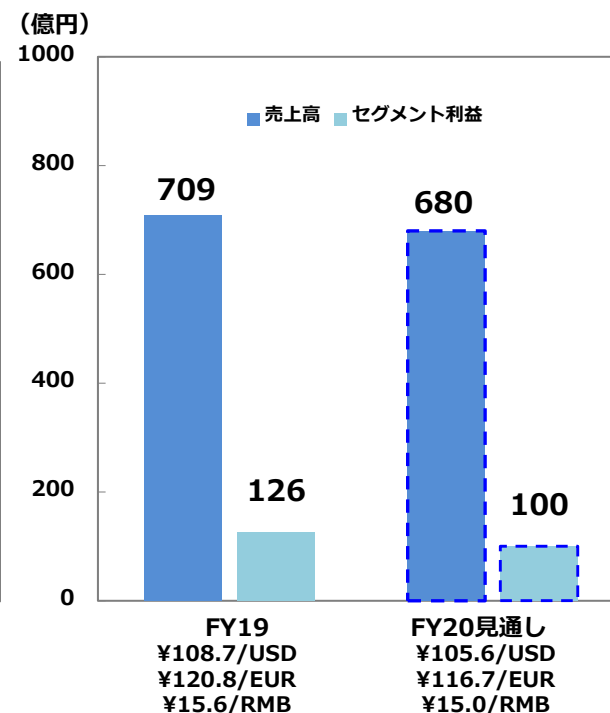
新規取組高

2019年度 vs. 2020年度(見通し)



収益

2019年度 vs. 2020年度(見通し)

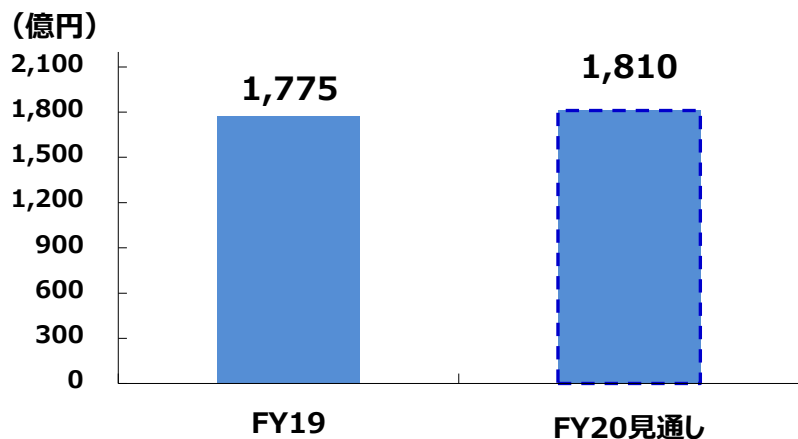


金額単位：億円	2020年3月末	2021年3月末(見通し)	前年比
借入金	6,480	6,414	▲66
ネットベースの借入金	6,424	6,389	▲35
ネットD/Eレシオ	3.80	3.91	+0.11ポイント

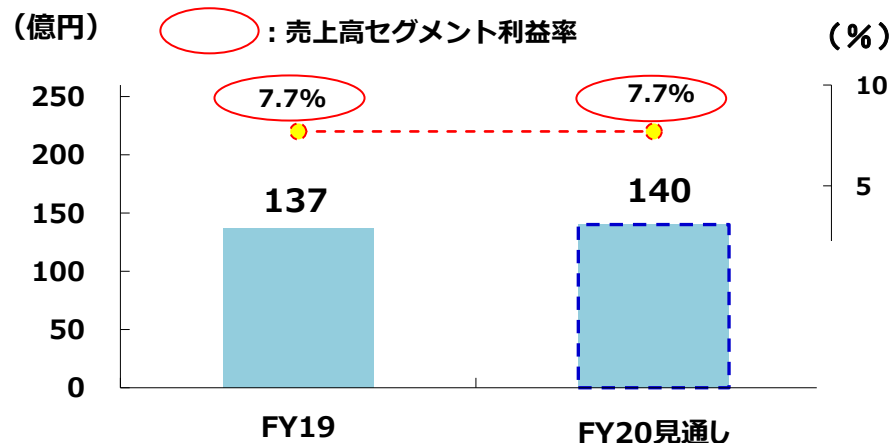
	2019年度	2020年度(見通し)	前年比
ROA	1.5%	1.2%	▲0.3%

・売上高は前年比+1.9%増収の1,810億円、セグメント利益は前年比+2億円増益の140億円となる見通し。

売上高 2019年度 vs. 2020年度(見通し)



セグメント利益 2019年度 vs. 2020年度(見通し)

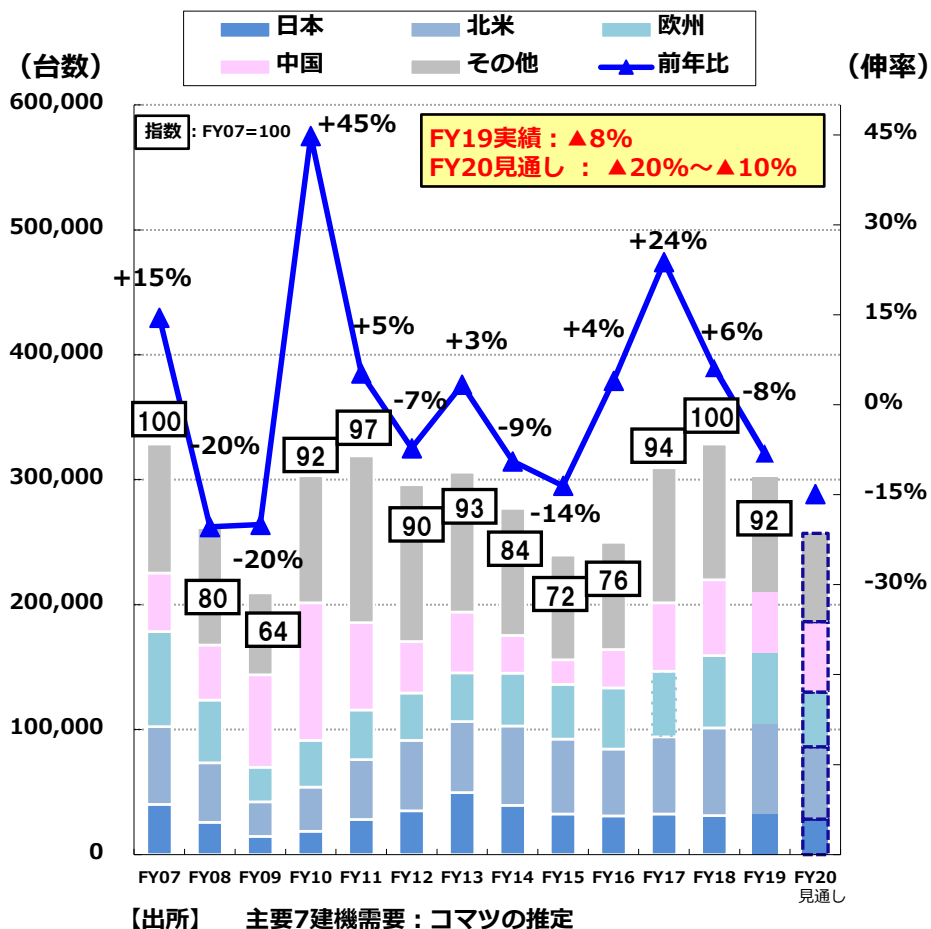


売上高の内訳

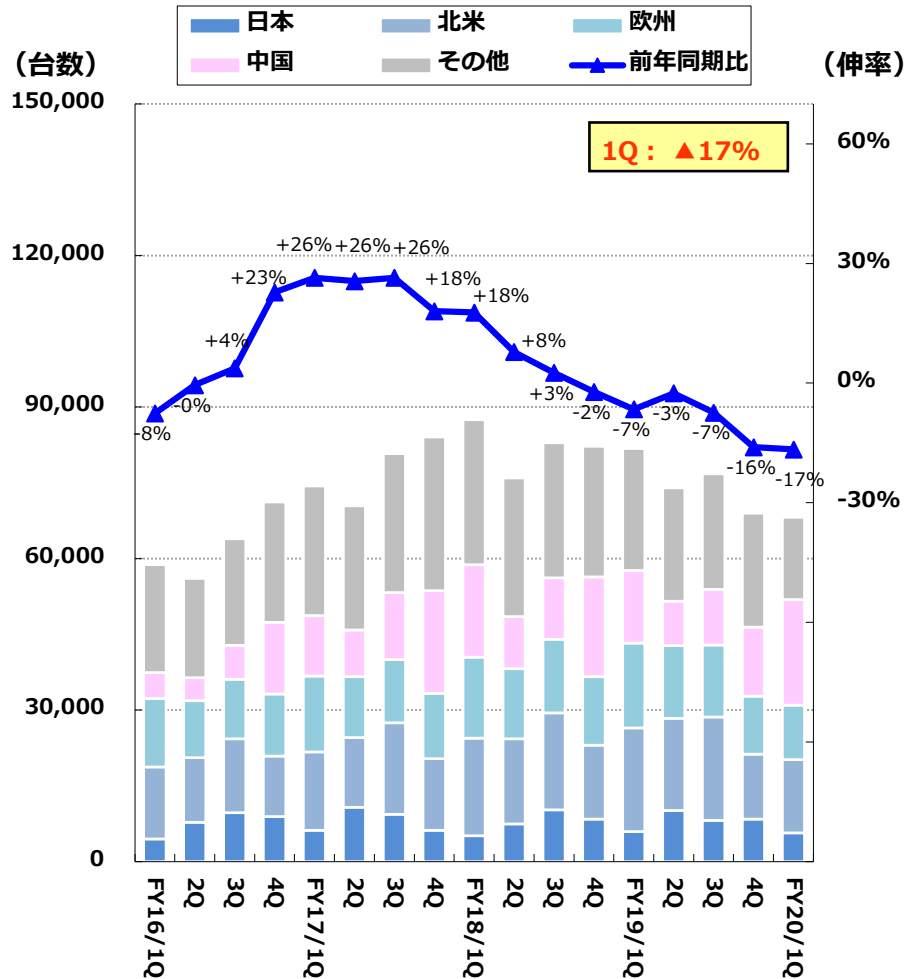
(億円)	2019年度	2020年度 (見通し)	前年比	
			増減	増減率
コマツ産機	550	572	+22	+4.0%
コマツNTC	483	364	▲119	▲24.7%
ギガフォトン	350	398	+47	+13.6%
その他	390	474	+83	+21.4%
合計	1,775	1,810	+34	+1.9%

- ・ 2020年度第1四半期の需要は、前年同期比▲17%減少。
- ・ 2020年度の需要は、全体としては前年比▲20%～▲10%の見通し。

主要7建機 年度別需要推移

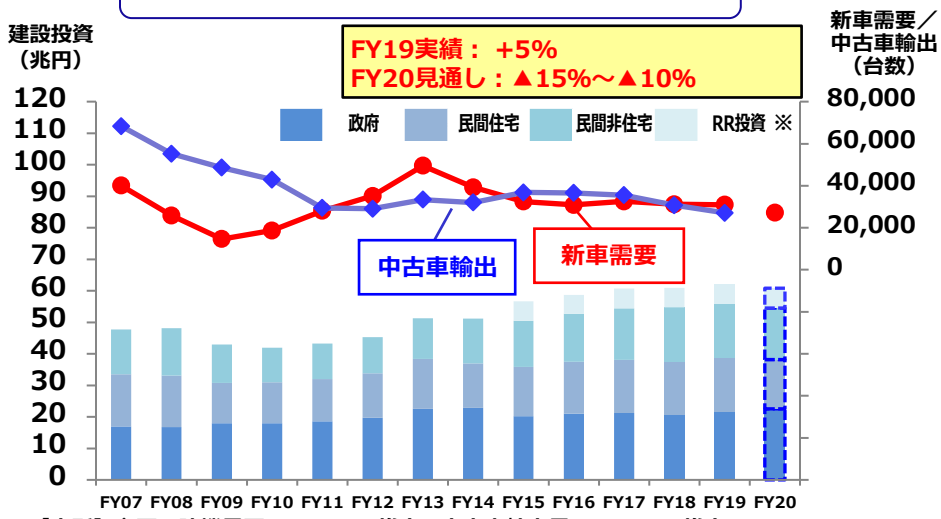


主要7建機 四半期別需要推移

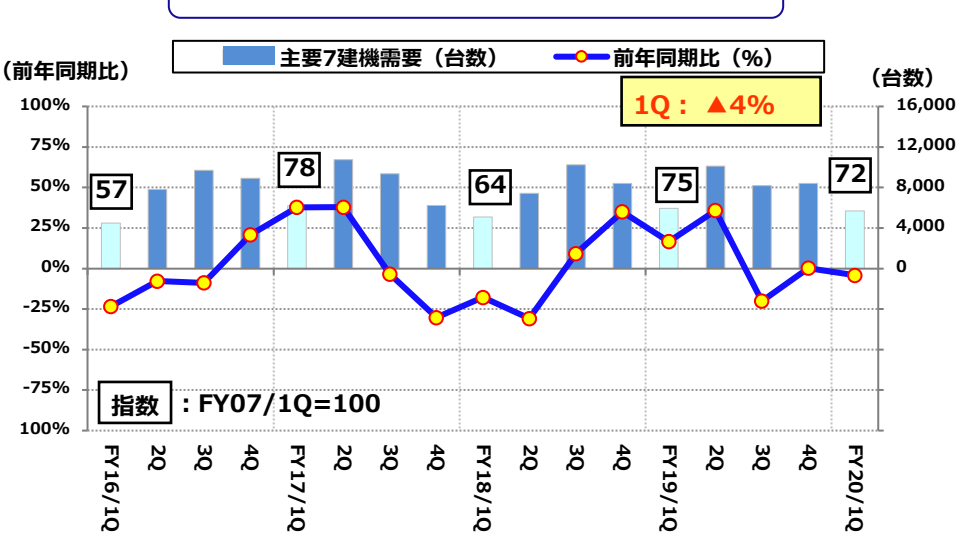


- ・2020年度第1四半期の需要は、前年同期比▲4%減少。
- ・2020年度の需要は、前年比▲15%～▲10%の見通し。

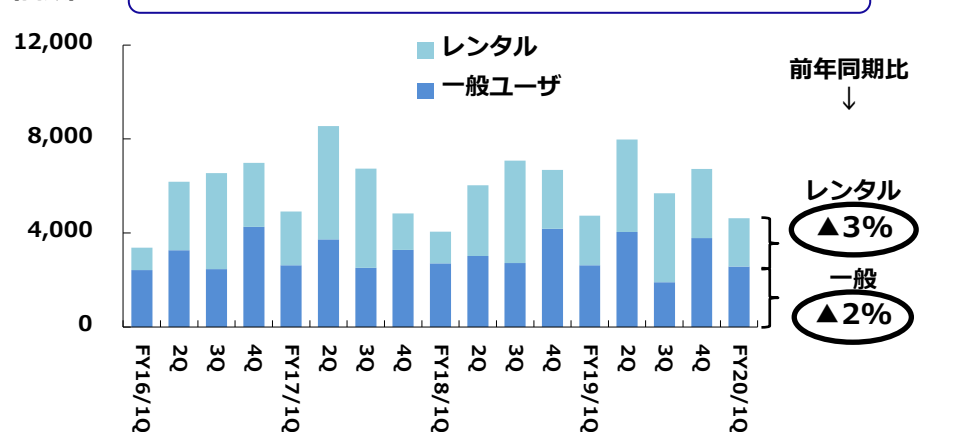
新車需要（主要7建機）と建設投資



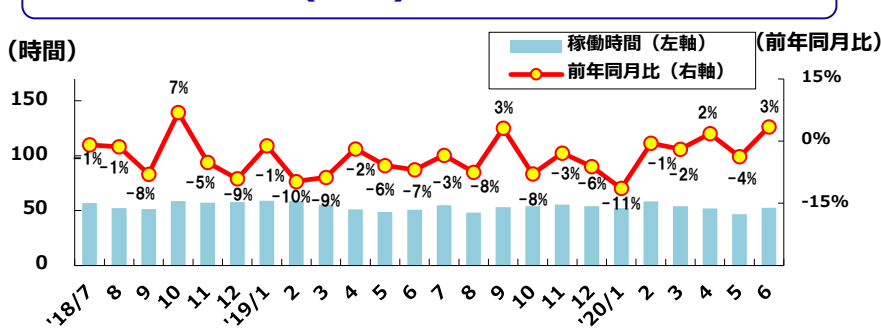
主要7建機 四半期別需要推移



油圧ショベル 需要推移(レンタル/一般向け)



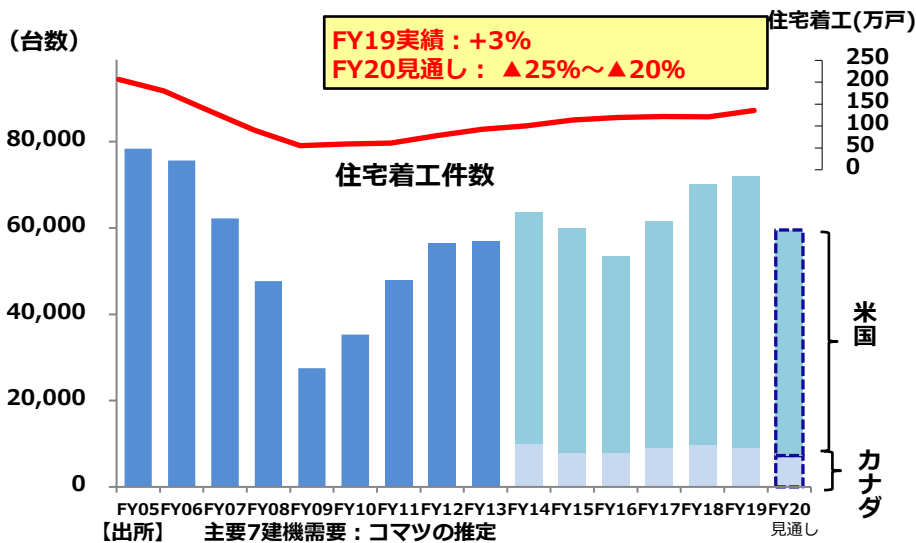
KOMTRAX(日本) 月平均稼働時間推移



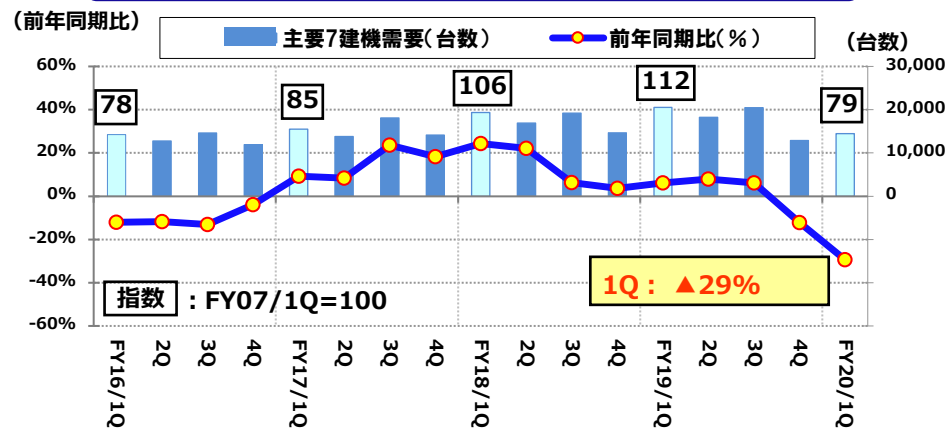
※ 2019年9月より建築物リフォーム・リニューアル投資 (RR投資) の集計が追加された、15年まで遡及表示。

- ・2020年度第1四半期の需要は、前年同期比▲29%減少。
- ・2020年度の需要は、前年比▲25%～▲20%の見通し。

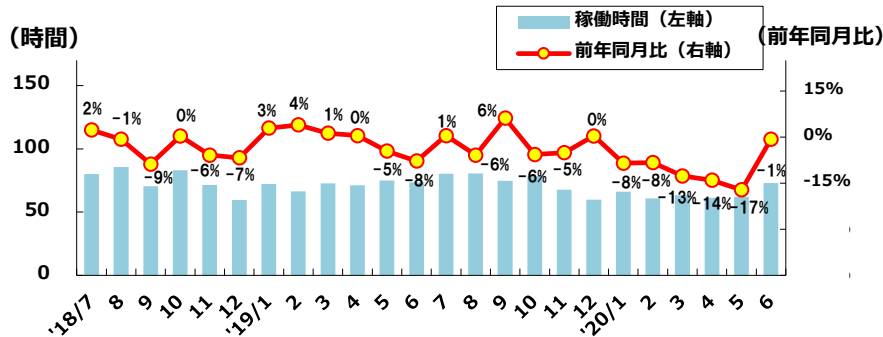
主要7建機 需要推移と住宅着工件数



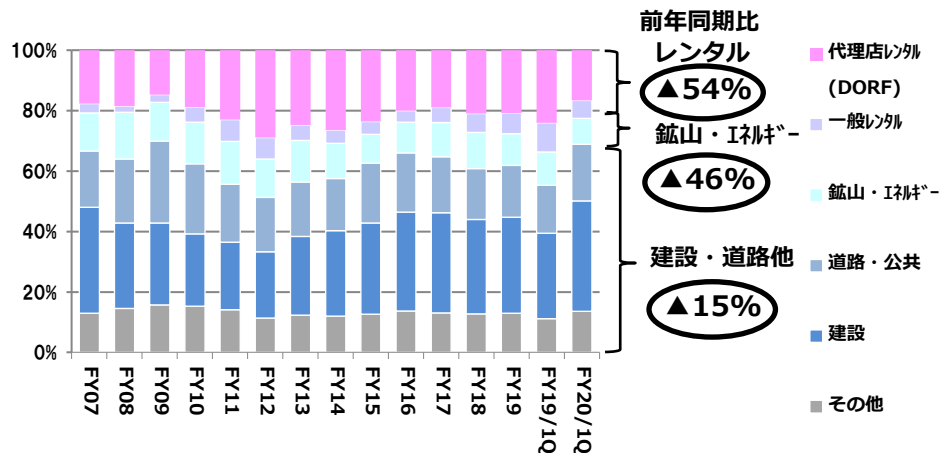
主要7建機 四半期需要推移



KOMTRAX(北米) 月平均稼働時間推移

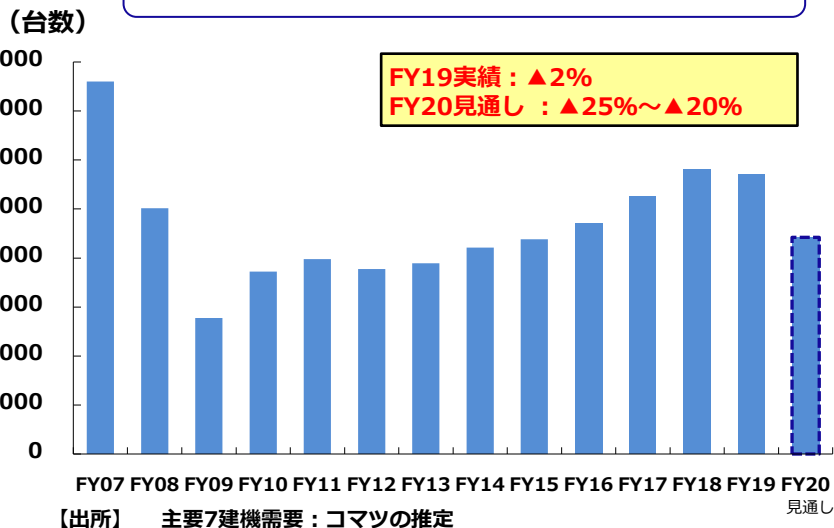


セグメント別需要構成比(台数ベース)

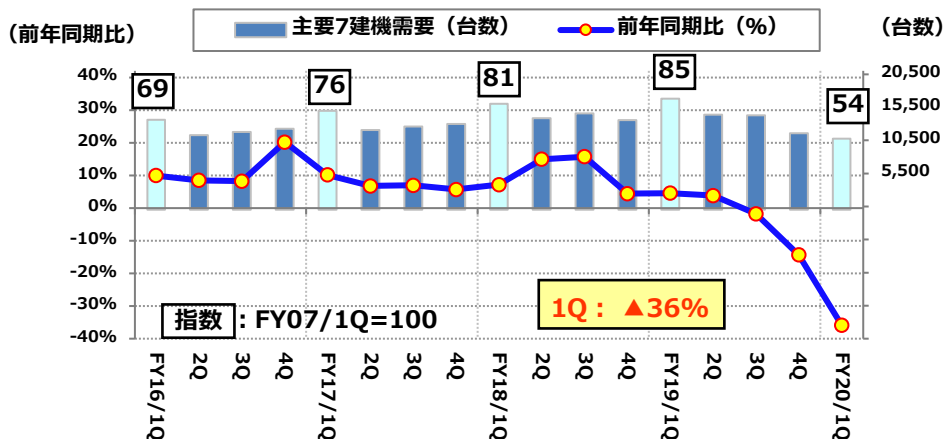


- ・ 2020年度第1四半期の需要は、前年同期比▲36%減少。
- ・ 2020年度の需要は、前年比▲25%～▲20%の見通し。

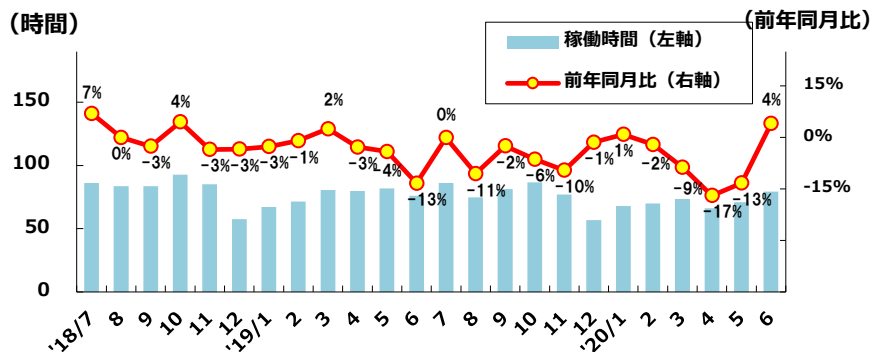
主要7建機 年度別需要推移



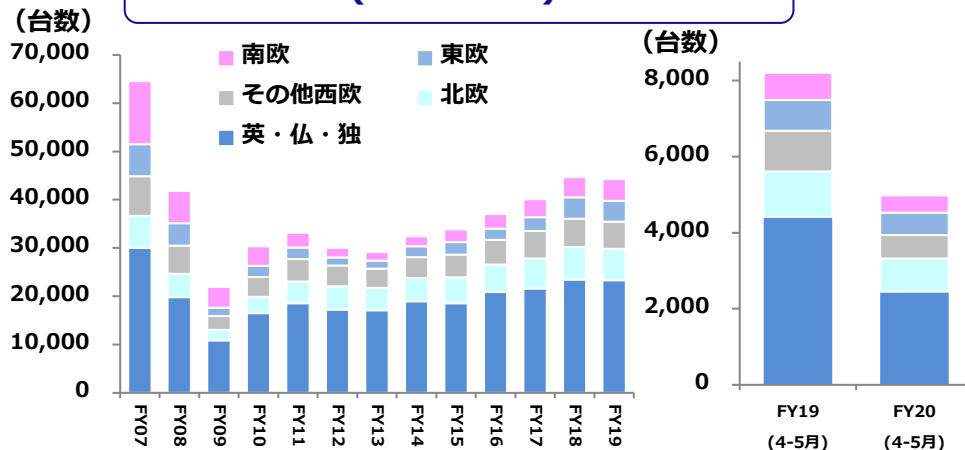
主要7建機 四半期需要推移



KOMTRAX(欧州) 月平均稼働時間推移

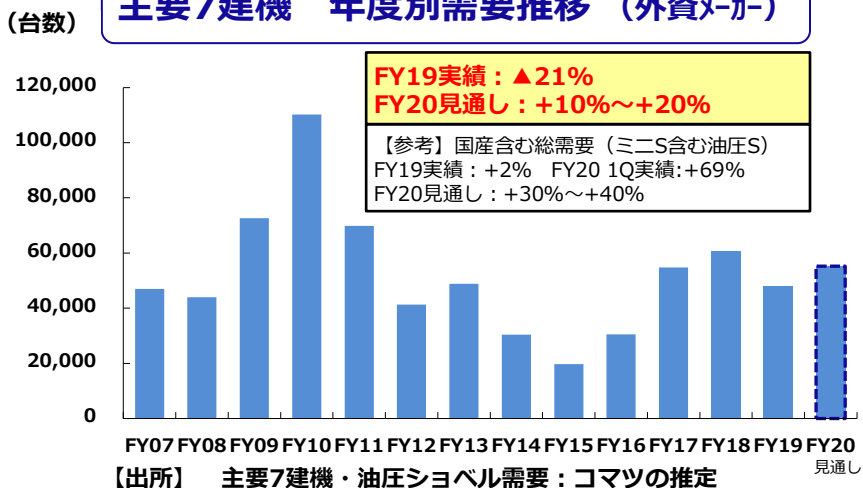


主要7建機(6ヶ国除く)地域別需要

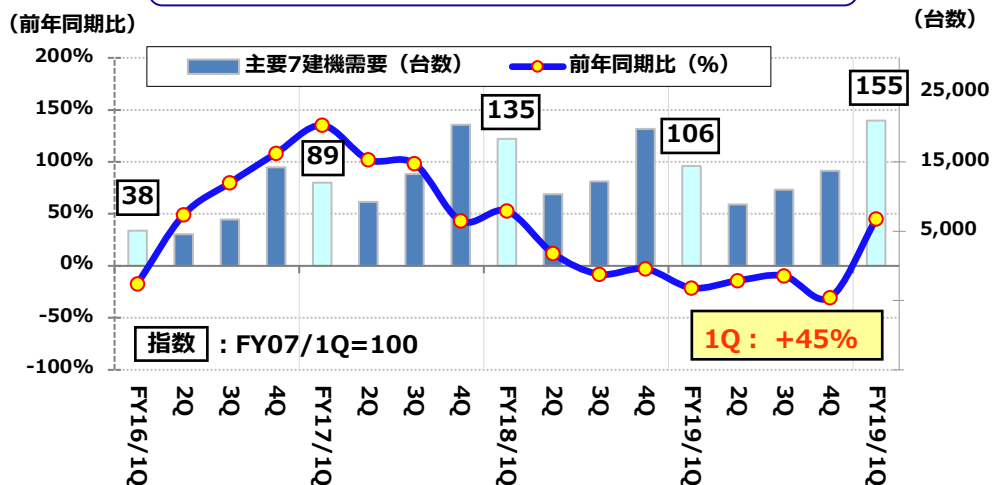


- ・ 2020年度第1四半期の需要は、前年同期比+45%増加。
- ・ 2020年度の需要見通しは、前年比+10%~+20%の見通し。

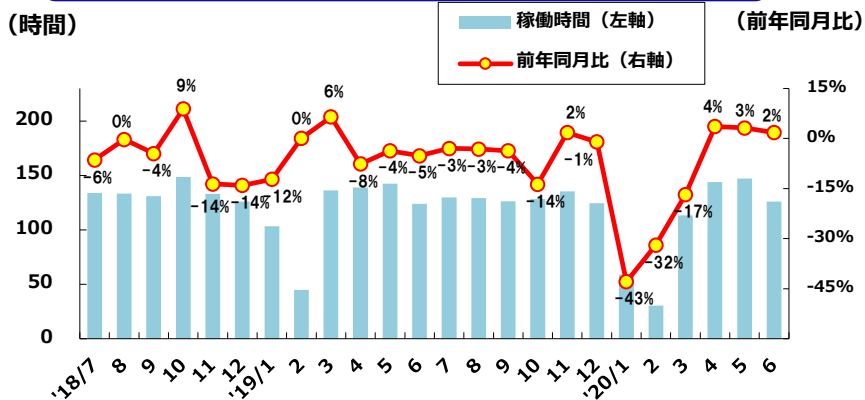
主要7建機 年度別需要推移 (外資メーカ)



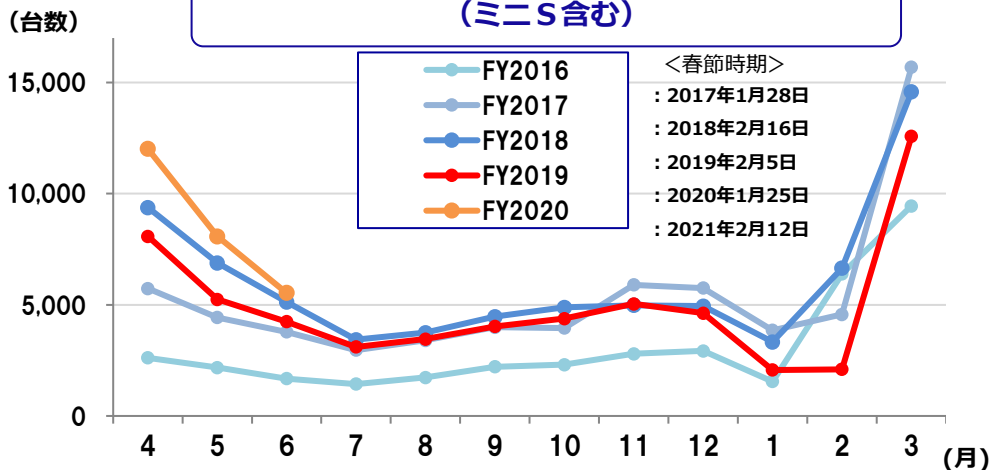
主要7建機 四半期需要推移 (外資メーカ)



KOMTRAX(中国) 月平均稼働時間推移

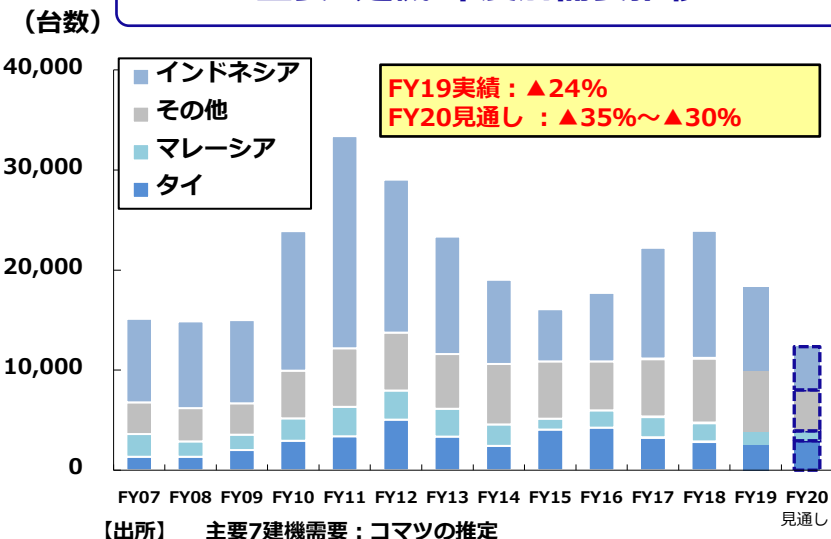


中国：油圧ショベルの月別需要推移 (ミニS含む)

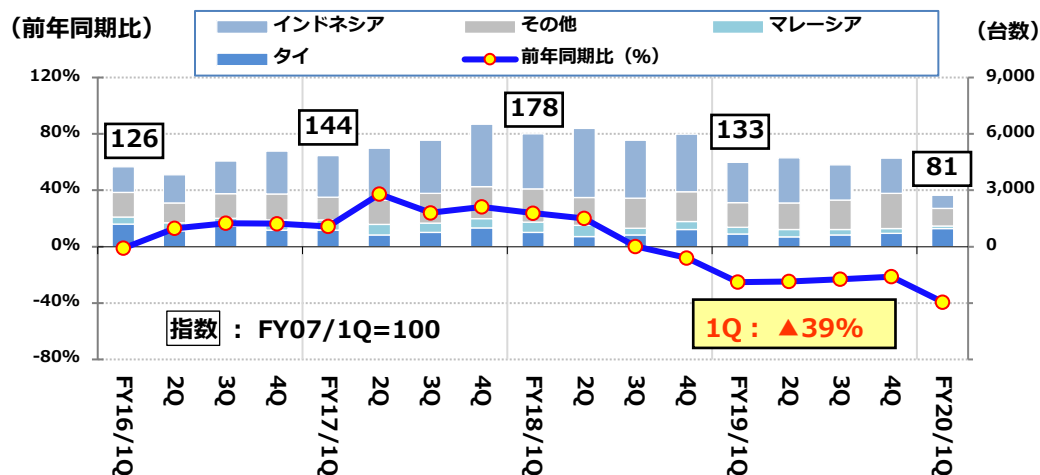


- ・ 2020年度第1四半期の需要は、前年同期比▲39%減少。
- ・ 2020年度の需要は、前年比▲35%～▲30%の見通し。

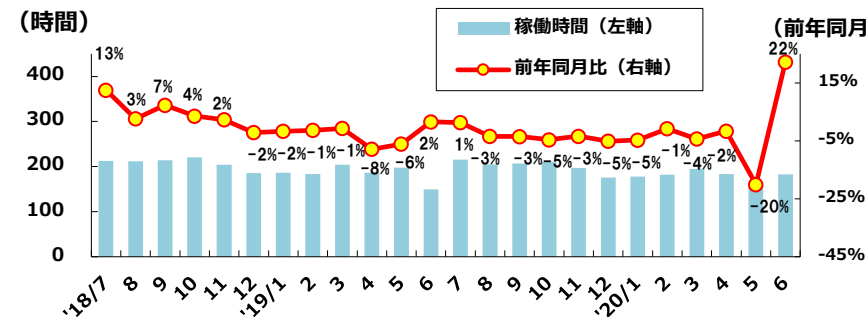
主要7建機 年度別需要推移



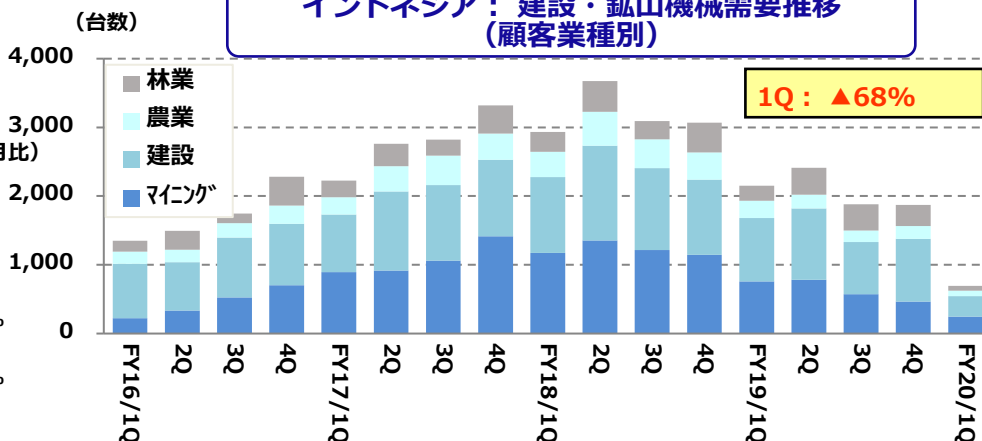
主要7建機 四半期需要推移



KOMTRAX(インドネシア) 月平均稼働時間推移



インドネシア：建設・鉱山機械需要推移 (顧客業種別)



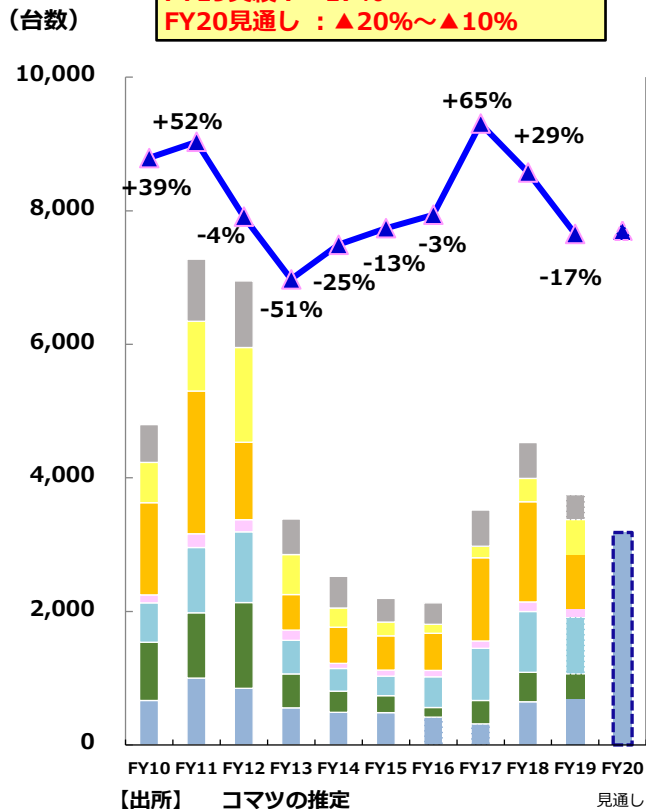
- ・2020年度第1四半期の需要は、前年同期比▲29%減少。
- ・2020年度の需要は、前年比▲20%～▲10%の見通し。

鉱山機械 年度別需要推移

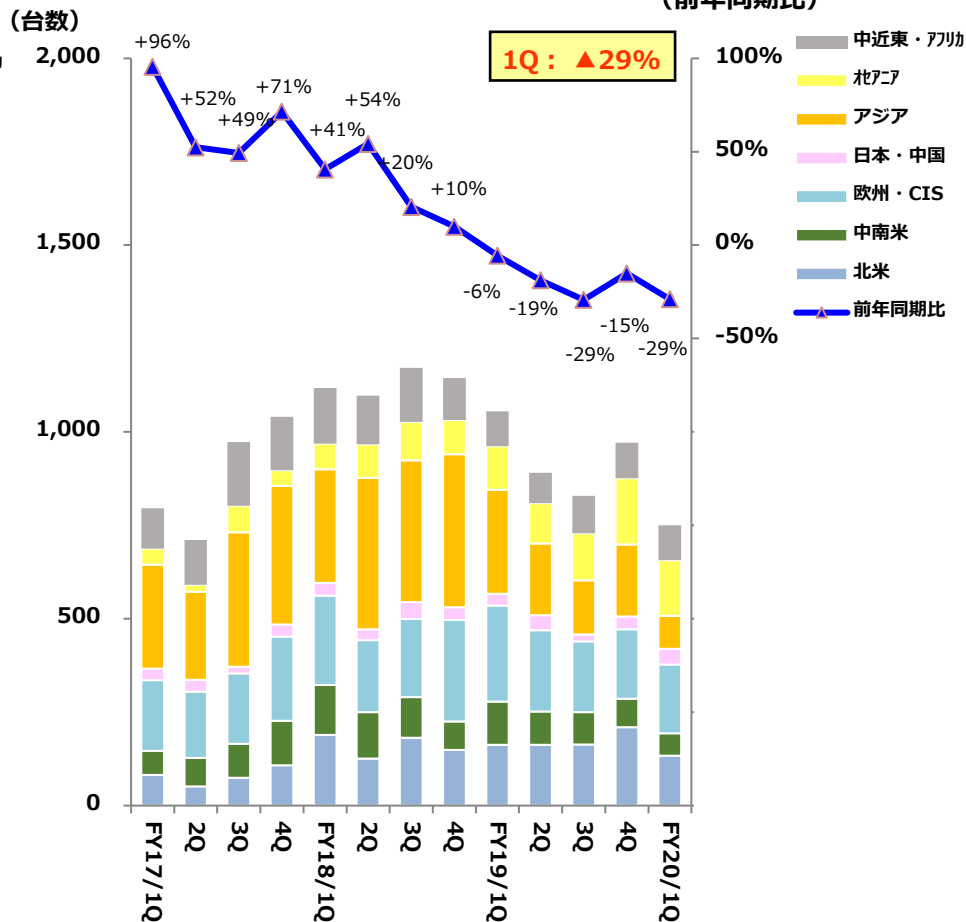
鉱山機械 四半期別需要推移

- ・ダンプトラック：75 t (HD785) 以上 ・ブルドーザー：525HP (D375) 以上
- ・エクスカベータ：200 t (PC2000) 以上 ・ホイールローダー(機械駆動)：810HP (WA800) 以上
- ・モーターグレーダー：280HP (GD825) 以上

FY19実績：▲17%
FY20見通し：▲20%～▲10%

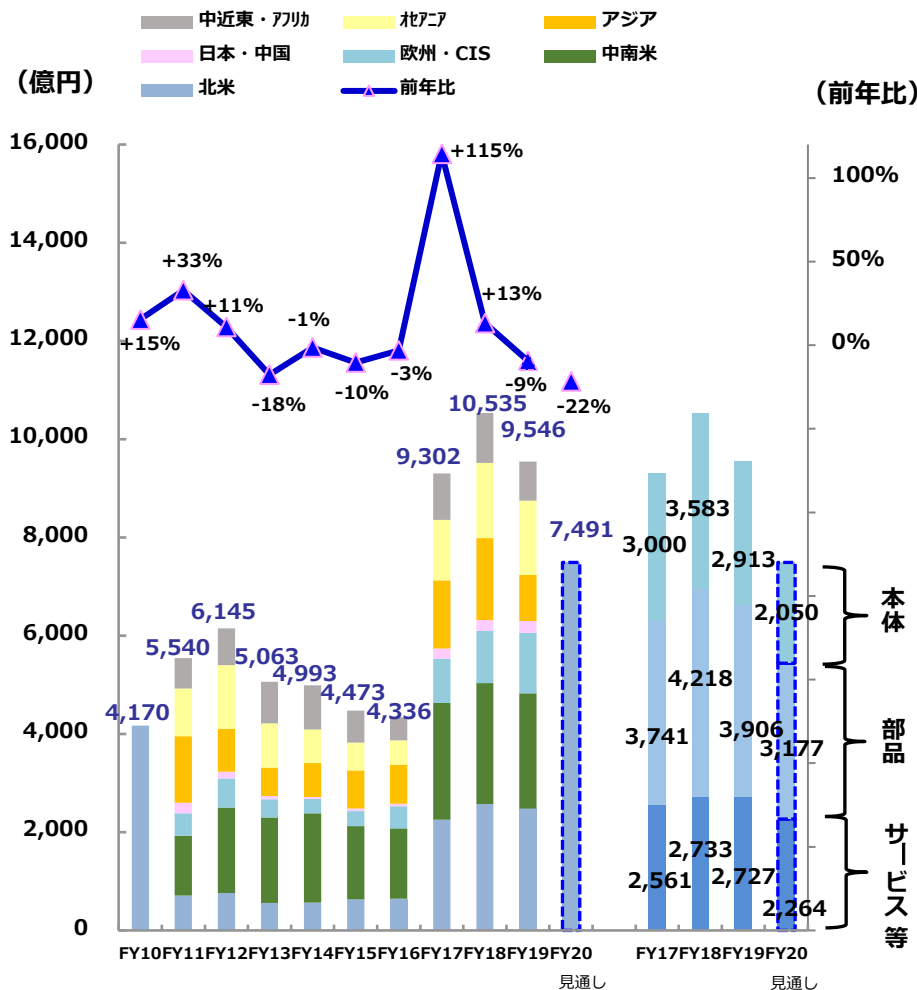


(前年同期比)

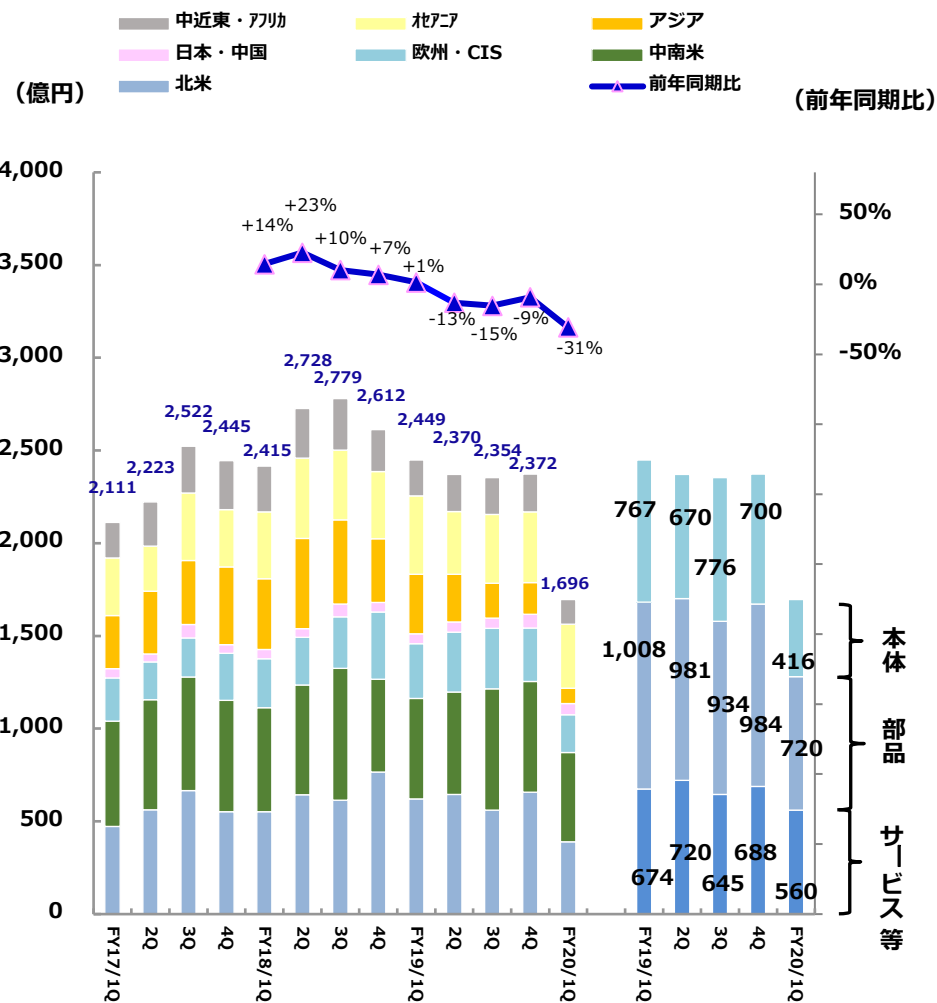


- ・ 2020年度第1四半期の売上高は、前年同期比▲31%減少の1,696億円。
- ・ 2020年度の売上高は、前年比▲22%の7,491億円の見通し。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)

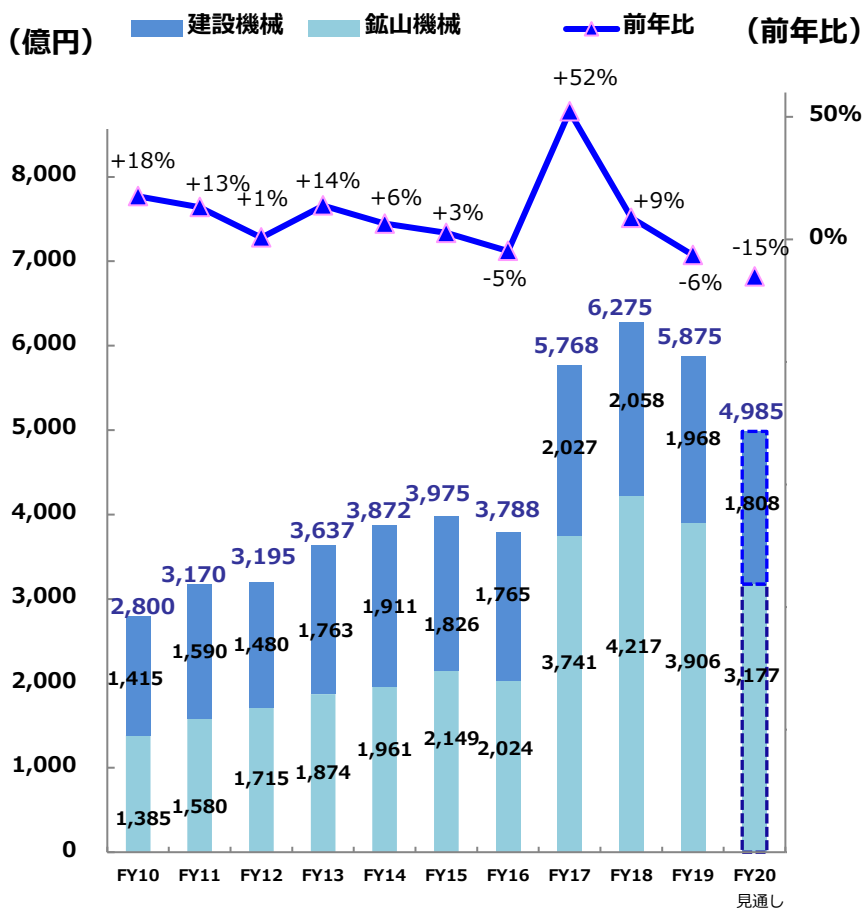


鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス等含む)

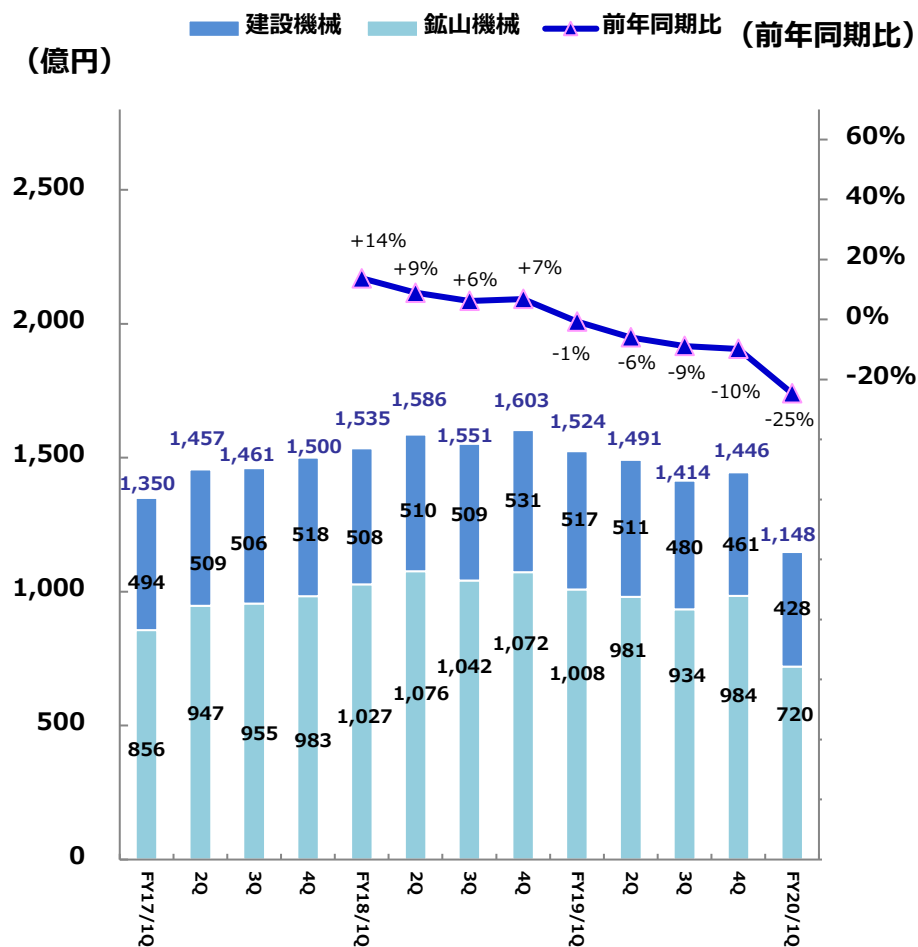


- ・ 2020年度第1四半期の部品売上高は、前年同期比▲25%減少の1,148億円。
- ・ 2020年度の部品売上高は、前年比▲15%の4,985億円の見通し。

部品 年度別売上高

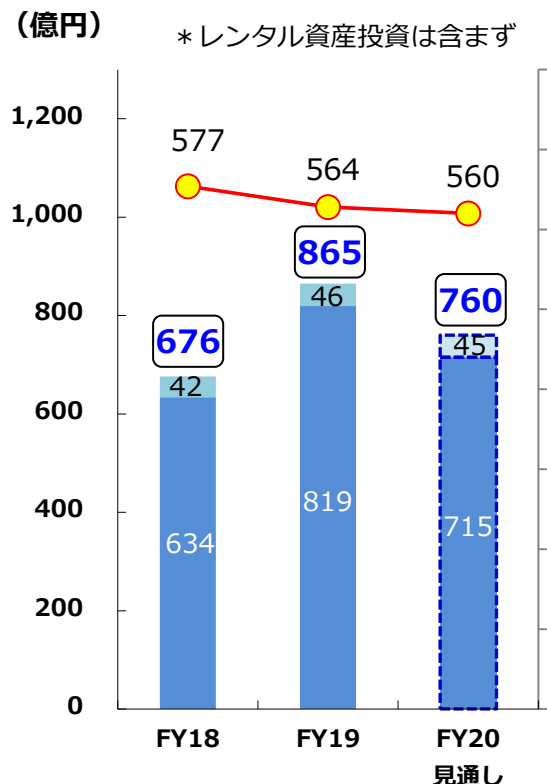


部品 四半期別売上高



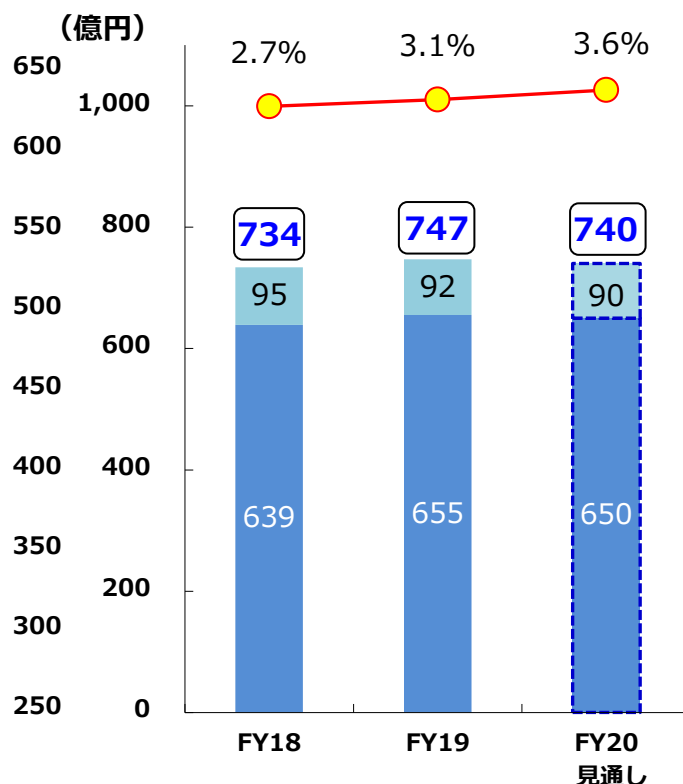
- ・設備投資は、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う投資の一部凍結や延期により、前年比減少。
- ・研究開発費は、成長分野への重点投資を実行し、前年並みの水準を維持。
- ・固定費は、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う活動費縮小等により、前年比減少。

生産設備等*の投資 および減価償却費



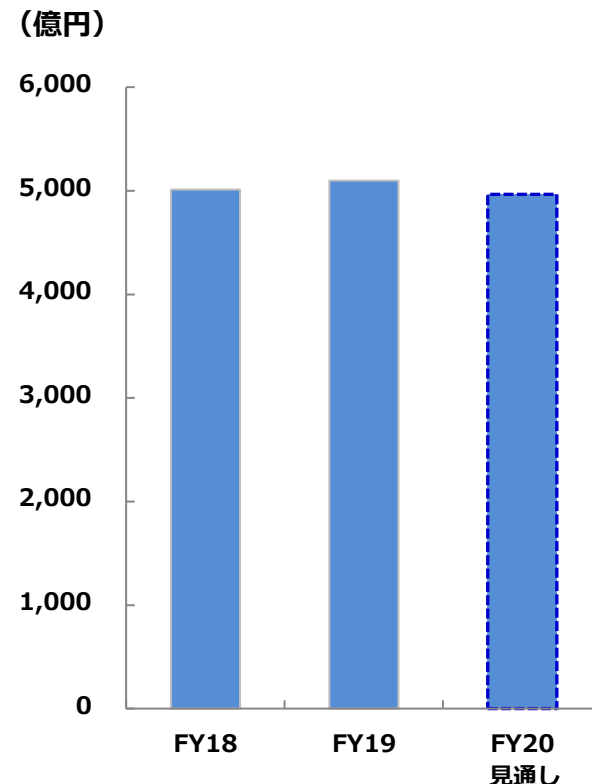
■ 建設機械・車両及びリテールファイナンス
■ 産業機械他
● 減価償却費

研究開発費



■ 建設機械・車両
■ 産業機械他
● 売上高比率 (%)

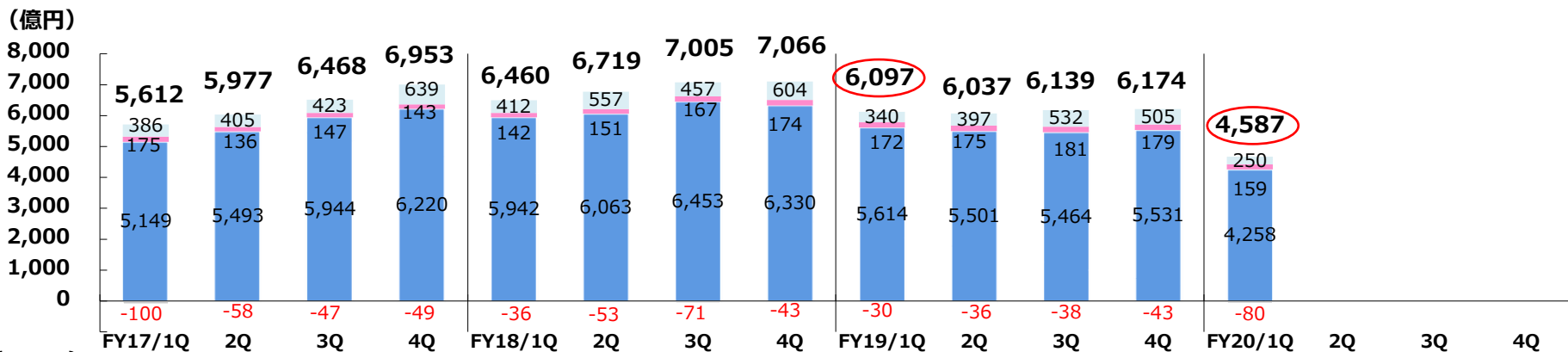
固定費



参考資料

連結売上高 (FY17~)

産業機械他 ■ リテールファイナンス ■ 建設機械・車両 ■ 消去

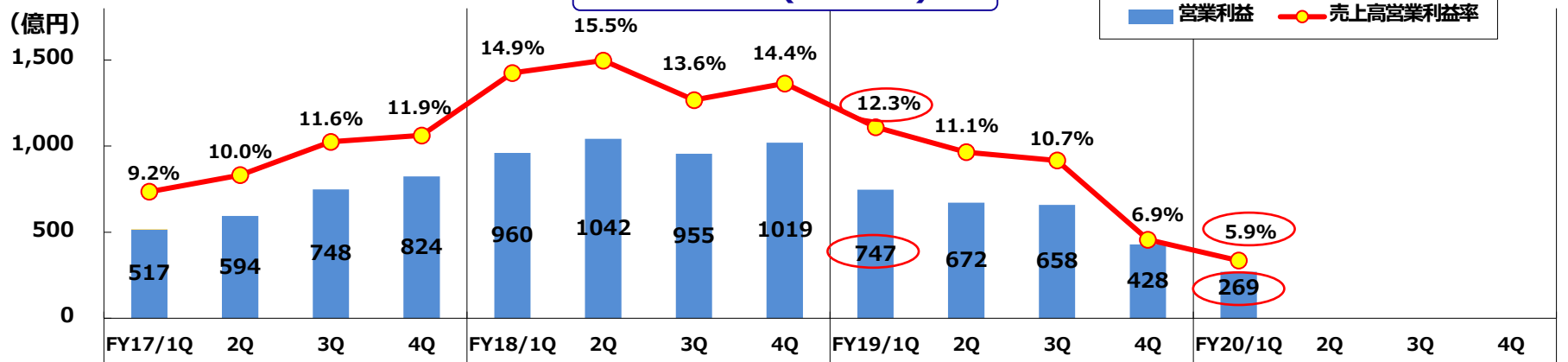


為替レート

	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q
¥/USD	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5			
¥/EUR	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6			
¥/RMB	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2	16.2	15.5	15.4	15.5	15.1			

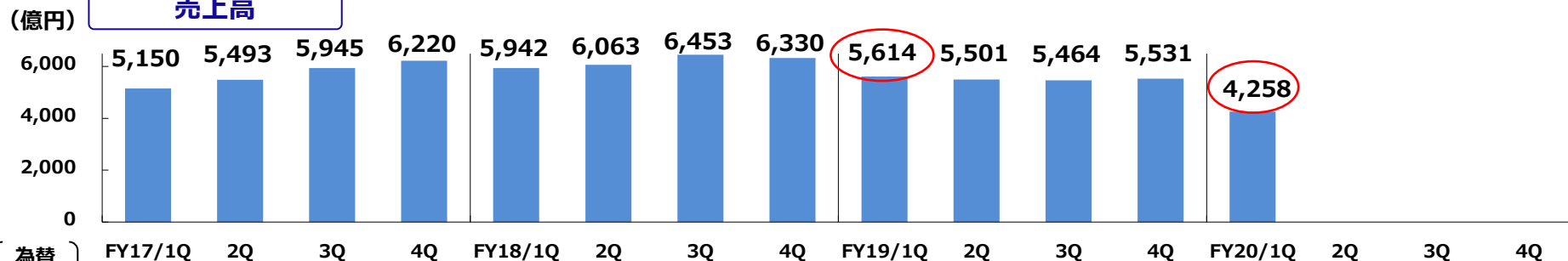
営業利益 (FY17~)

■ 営業利益 ● 売上高営業利益率



<建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

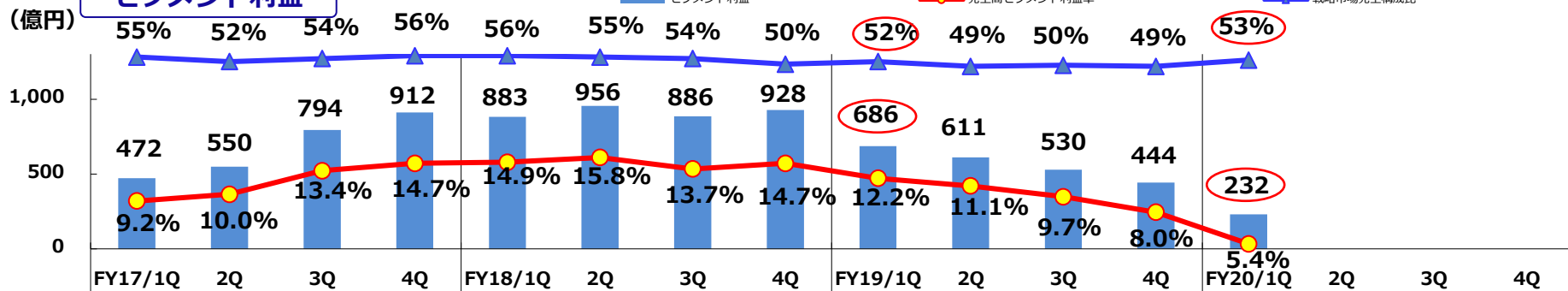
売上高



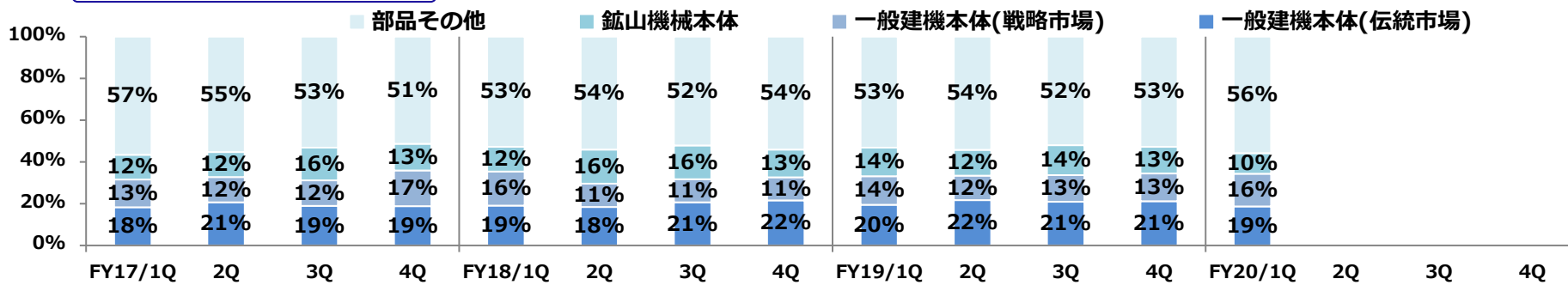
為替
レート

	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q
¥/USD	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5			
¥/EUR	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6			
¥/RMB	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2	16.2	15.5	15.4	15.5	15.1			

セグメント利益

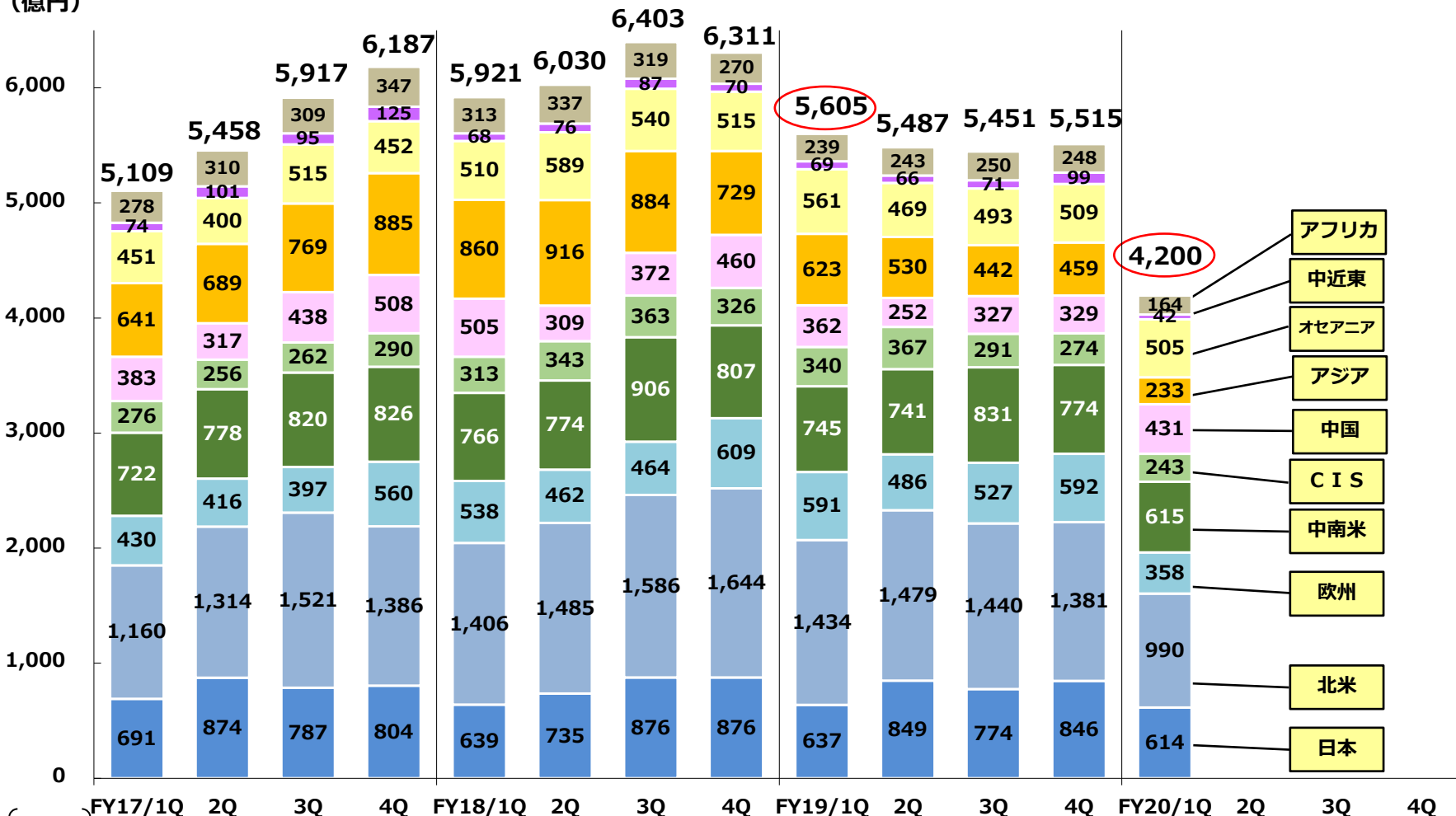


売上高構成比



<建設機械・車両> 四半期毎の地域別売上高（外部顧客向け）

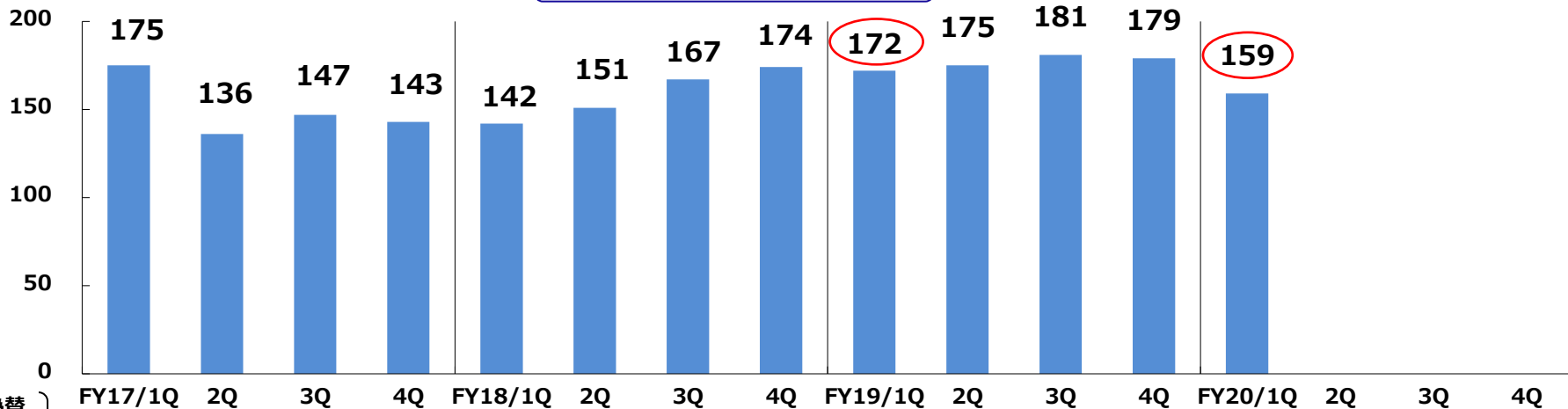
(億円)



為替レート	FY17				FY18				FY19				FY20			
	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q
¥/USD	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5			
¥/EUR	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6			
¥/RMB	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2	16.2	15.5	15.4	15.5	15.1			

(億円)

売上高

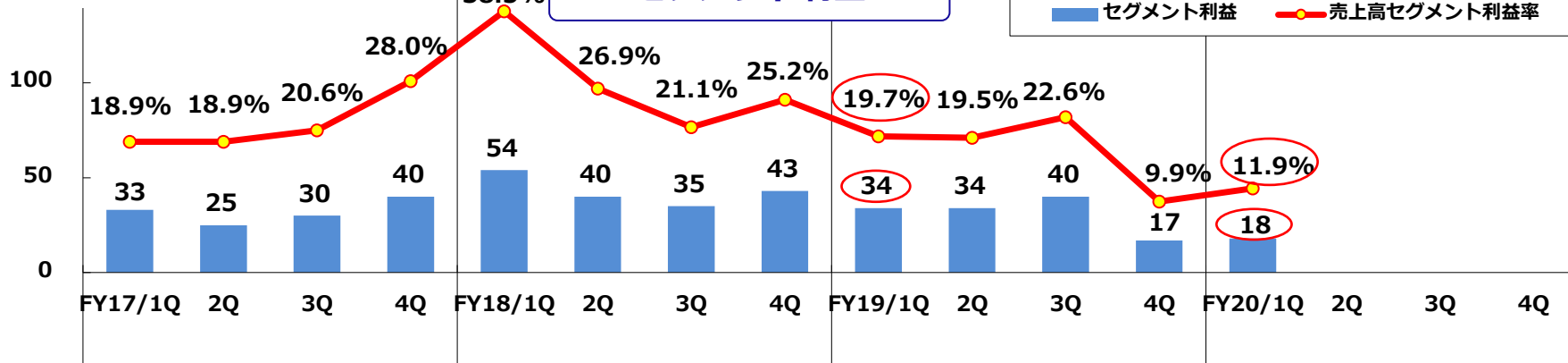


為替
レート

	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q
¥/USD	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5			
¥/EUR	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6			
¥/RMB	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2	16.2	15.5	15.4	15.5	15.1			

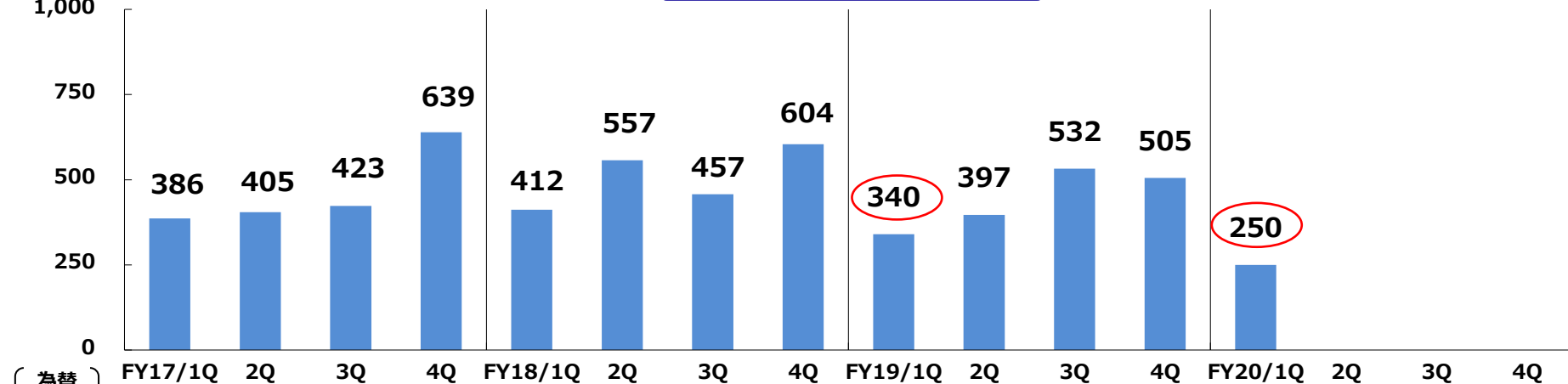
(億円)

セグメント利益



(億円)
1,000

売上高



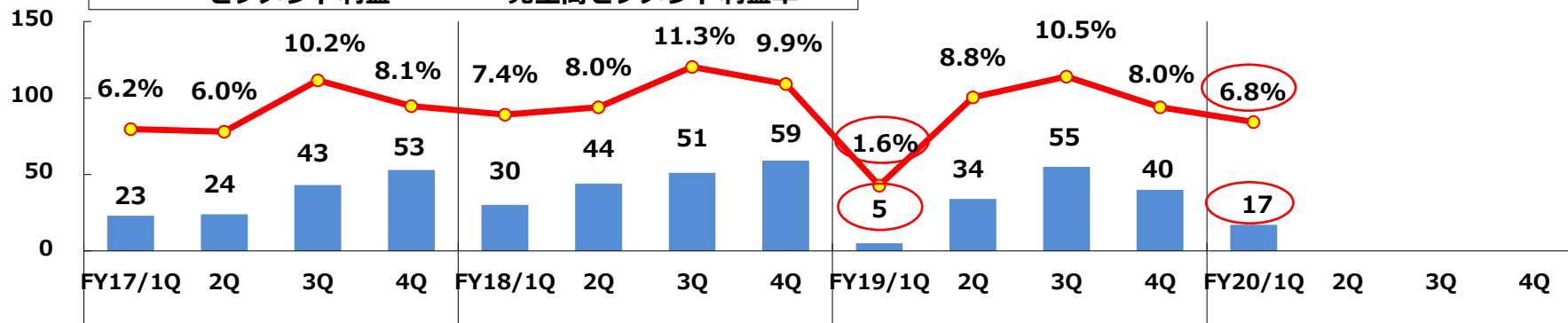
為替
レート

	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q
¥/USD	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5			
¥/EUR	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6			
¥/RMB	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2	16.2	15.5	15.4	15.5	15.1			

セグメント利益

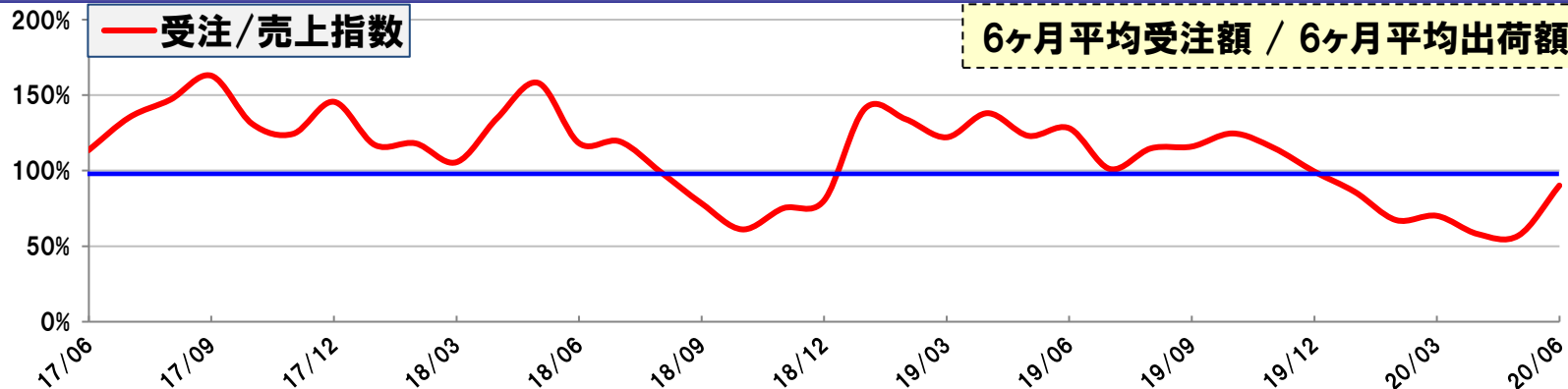
(億円)

■ セグメント利益 ● 売上高セグメント利益率



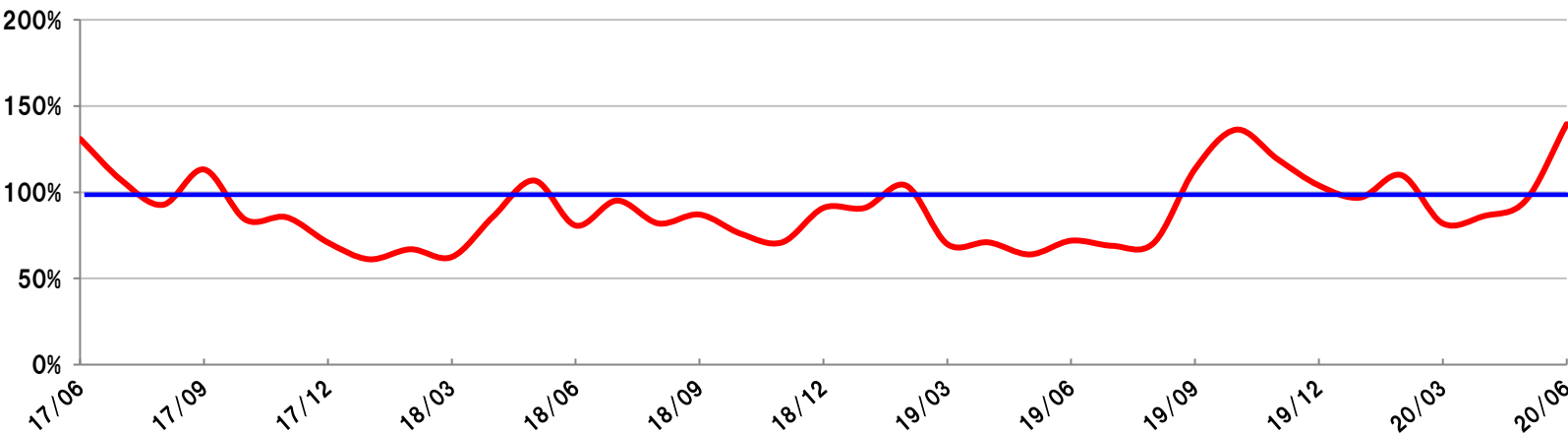
**コマツアメリカ
(マイニング)**

730E, 830E
860E
930E, 960E
980E



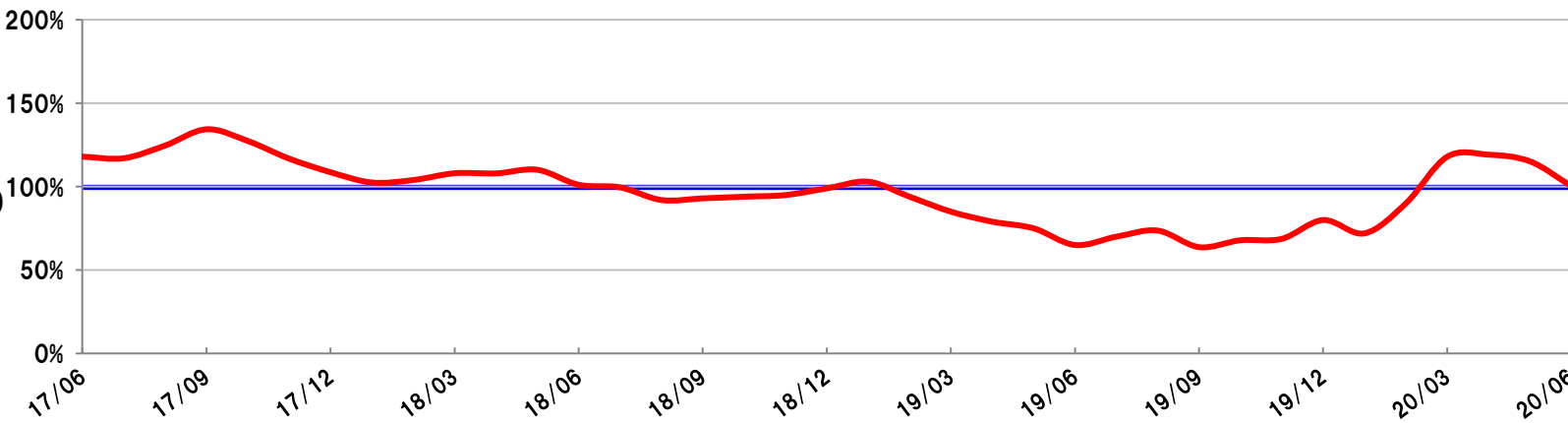
**コマツドイツ
(マイニング)**

PC3000, PC4000
PC5500, PC7000
PC8000



**コマツ単独
(マイニング)**

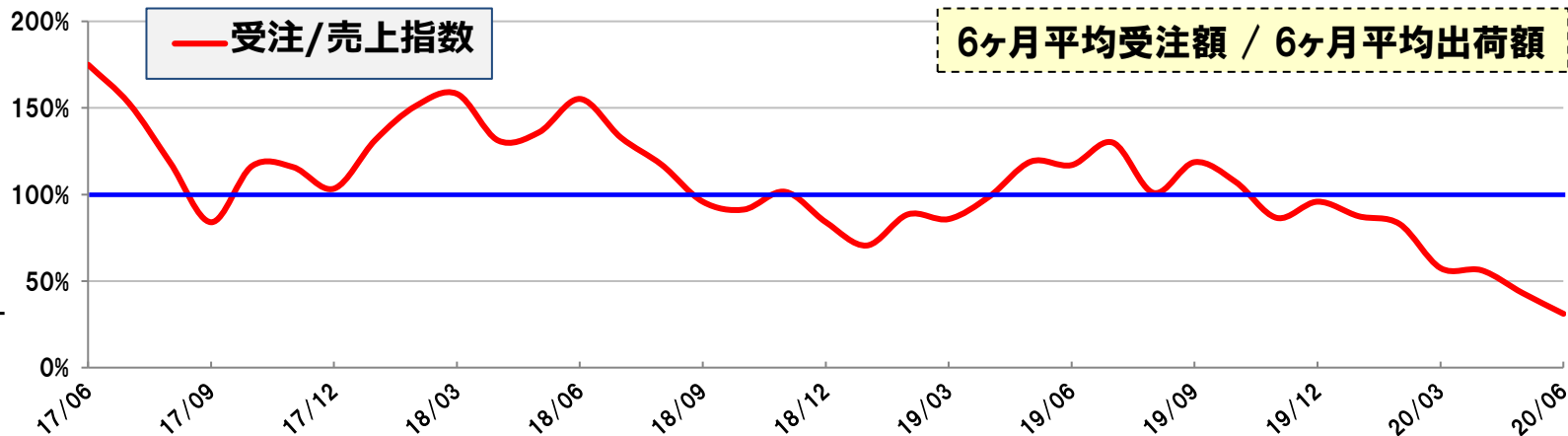
HD785, HD1500
PC2000, PC3000
PC4000
WA800 up
D375A up
GD825A up



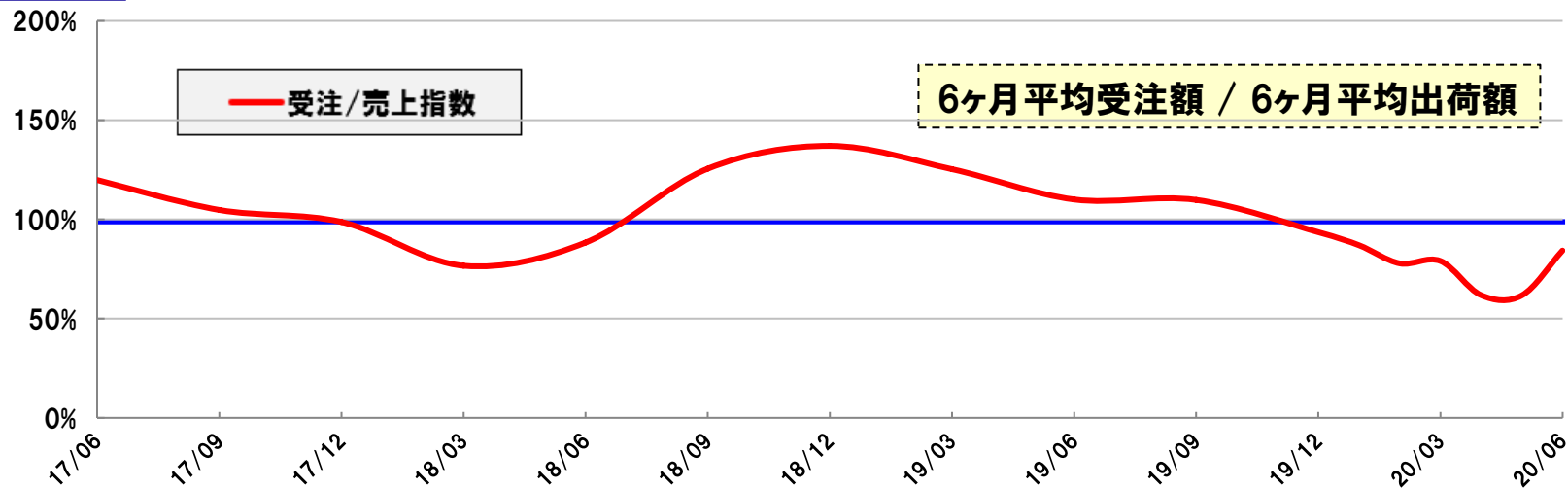
KMC
(マイニング)

<露天掘り>
ロープショベル
ブラストホールドリル
ドラグライン他

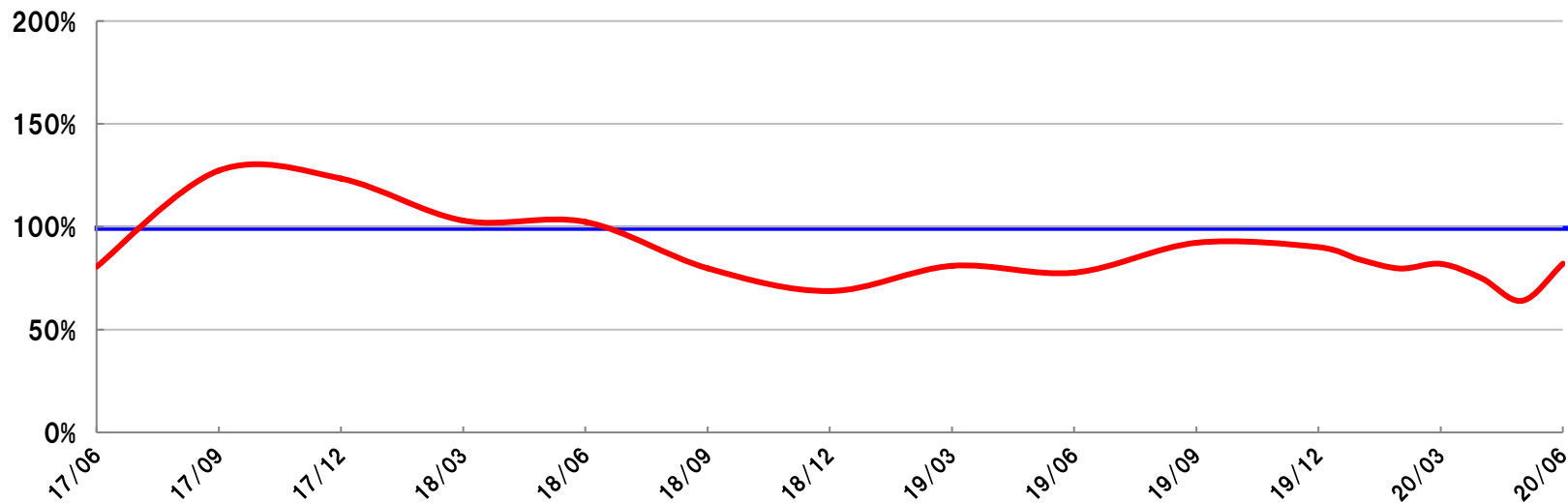
<坑内掘り>
コンティニューアスマイナ
シアラー
ロードホールダンプ
ドリルジャンボ他



コマツ産機



コマツNTC



ハイブリッド建機

電動化建機

CO2
削減

電動化

グリーンボンドの発行により調達する資金は、

発行額:100億円
発行時期:7月16日
発行年限:5年
利率:年0.130%

- ・環境に優しい商品やサービスの開発
 - ・生産現場の環境負荷低減活動
- に使われます。

次世代KOMTRAX

スマートコンストラクション

生産性
向上

次世代型工場

再エネ活用
CO2半減

7月10日 ニュースリリース

2005年 チリ コデルコ社銅鉱山へ試験導入

2020年6月末現在、**合計4か国・11現場で計251台**のAHSダンプトラックが24時間稼働中

2020年7月末に**累計総運搬量30億トン**を達成しました

氷見工場の素形材技術開発強化およびグローバルの素形材マザー工場活動の一環として、現在稼働中のシールリング(※)工場の機能を、今回建設する新工場へ移し品質、生産性、環境の大幅な向上を目指していきます。

主な導入技術

	遠心鑄造化拡大	高能率加工ライン	AI画像検査
現工場	 砂型鑄造	 ラップ研磨	 目視検査
新工場	 遠心鑄造	 コマツNTC製 高能率研削	 カメラコマツNTC製 AI検査



(※) 建設機械のキーコンポーネントである足回りコンポーネントにおいて、内部の潤滑油の漏れ防止のために使用されている精密部品

7月15日 ニュースリリース

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。